Pioneer

HTZ-HW919BD ブルーレイディスクサラウンドシステム

XV-BD919FS ブルーレイディスクレシーバー

S-BD717SW サブウーファー

S-BD919HW スピーカーシステム

HTZ-616BD ブルーレイディスクサラウンドシステム

XV-BD717 ブルーレイディスクレシーバー

S-BD606 スピーカーシステム

HDMI

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

1　はじめに

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意 (警告を含む) しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容 (左図の場合は感電注意) が描かれています。

⃠ 記号は禁止 (やってはいけないこと) を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け) が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

放熱をよくするため他の機器、壁などから間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→ あおむけや横倒し、逆さまにする。
→ 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→ じゅうたんやふとんの上に置く。
→ テーブルクロスなどをかける。

本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

本機に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

表示された電源電圧（交流 100 ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

本機の使用環境について

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光（または人工の強い光）の当たる場所に設置しないでください。

D3-4-2-1-7c_A1_Ja

⚠ 注意

本機を設置する場合には、壁から 10 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。

ラックなどに入れるときには、本機の天面から 10 cm以上、背面から 10 cm以上、側面から 10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、電源スイッチを切って必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

本機の上にテレビやオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは 2 人以上で行ってください。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

音が歪んだ状態で長時間使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。

レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

電池

指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(＋)マイナス(－)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

長期間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠ 3D視聴に関するご注意

3D 映像の視聴中に疲労、不快感等、異常を感じた場合は視聴を中止してください。

発達段階にあるお子様(特に 6 歳未満)の 3D 視聴は視力に影響を及ぼす可能性があるので、疲労や不快感がないか保護者の方がご注意ください。

3D 映画の視聴は適度に休憩をとってください。

◆ 長時間の視聴は疲労や不快感の原因になることがあります。

注意
この製品は、レーザ製品の安全基準 IEC 60825-1：2007 規格の基で評価されたクラス 1 レーザ製品です。

クラス 1 レーザ製品

D58-5-2-2a_A1_Ja

もくじ

1 はじめに

2 安全上のご注意

2 準備

8 **ご使用の前に**
8 "⊘" の表示について
8 本書で使用している記号について
8 付属品を確認する
9 本機で再生できるディスク
10 本機で再生できるファイル
11 リージョンコードについて
11 AVCHD規格(Advanced Video Codec High Definition)
12 高解像度の映像を再生するには
12 互換性に関する注意
13 **各部の名前とはたらき**
13 リモコン
15 リモコンに電池を入れる
16 本体前面
17 本体背面

3 接続

18 **スピーカーの設置(HTZ-HW919BD)**
18 スピーカーの接続
20 スピーカーの設置について
20 配置
21 **スピーカーの設置(HTZ-616BD)**
21 スピーカーの接続
22 スピーカーの設置について
23 配置
24 **テレビとの接続**
24 HDMIケーブルで接続する
25 コンポーネントビデオケーブルで接続する
26 ビデオケーブルで接続する
26 解像度の設定
27 **FMアンテナの接続**
27 **外部機器との接続**
27 アナログオーディオ機器の接続
28 ポータブルオーディオプレーヤーの接続
28 テレビやデジタルオーディオ機器の接続
29 HDMI機器の接続
29 *Bluetooth*®接続
31 **インターネット接続**
31 ネットワーク設定
33 **USB機器の接続**

4 再生

35 **基本操作**
35 ホームメニューを使う
35 ディスクの再生
37 ディスクメニューの使用
37 停止した場所から再生する(続き再生)
37 **応用再生**
37 リピート再生
38 指定箇所のリピート再生
38 マーカーサーチ
38 サーチメニューを使う
39 拡大・縮小する
39 ラストシーンメモリー
39 字幕ファイルの選択
40 字幕コードページの変更
40 **オンスクリーン画面**
40 コンテンツ情報のオンスクリーン表示
41 指定した時間からの再生

42 音声の切り換え
42 字幕の切り換え
43 アングルの切り換え
43 縦横比の変更
43 ピクチャーモードの変更
44 BD-Liveを楽しむ
45 動画ファイルとVRモード録画ディスクの再生
46 写真ファイルの再生
47 写真表示中のオプション
47 スライドショー時のBGMの再生
48 音楽の再生
49 オーディオCDをUSB機器に録音する
51 iPodの再生
51 接続
51 テレビ画面でのiPodの操作
52 iPod入力モードでの操作
53 FMラジオを聴く
53 放送局を受信する
53 放送局を記憶させる
53 記憶している放送局を削除する
53 記憶している放送局をすべて削除する
53 放送に雑音が多いとき
54 ホームネットワークを通じたコンテンツの再生
54 DLNAについて
54 DLNAメディアサーバーへのアクセス
55 パソコンからの共有フォルダへのアクセス
57 サウンドモードの設定

5 設定

58 本機の設定を行う
58 基本操作
59 [表示]メニュー
60 [言語]メニュー
61 [オーディオ]メニュー
61 [ロック]メニュー(視聴制限)
62 [ネットワーク]メニュー
63 [その他]メニュー
64 付属のリモコンを使用したテレビの操作
64 お使いのテレビに合わせたリモコンの設定
65 エリアコードリスト
66 言語コードリスト
67 映像出力解像度

6 困ったときは

68 故障かな?と思ったら
68 一般
69 映像
69 音声
70 ネットワーク
71 保証とアフターサービス
72 サービス拠点のご案内

7 その他

74 商標とライセンス
76 ソフトウェアのライセンスに関するお知らせ
81 電波に関するご注意
83 ディスクについての注意
83 本機の取り扱い
84 仕様(HTZ-HW919BD)
84 本体部
84 スピーカー部
85 仕様(HTZ-616BD)
85 本体部
85 スピーカー部

2　準備

ご使用の前に

“⊘” の表示について

本機を操作中に“⊘”がテレビ画面に表示されることがあります。これは本書で説明している機能が特定のメディアで使用できないことを示しています。

本書で使用している記号について

お知らせ

特記事項および特別な操作機能を示します。

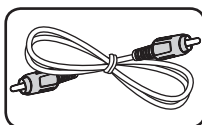
ご注意

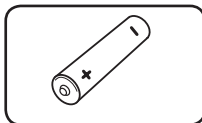
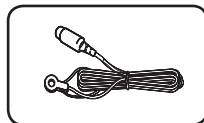
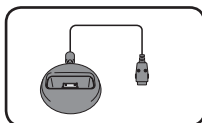
間違った使い方による損傷を防ぐための注意を示します。

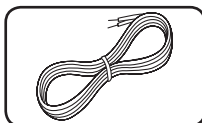
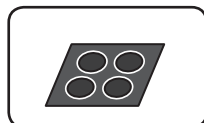
タイトルに下記の記号のある項目は、その記号で示したディスクおよびファイルのみに適用されます。

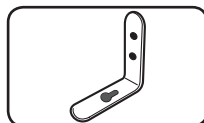
BD	BD-ROM、BD-R、BD-RE ディスク
DVD	DVD ビデオ、ビデオモードおよび VR モードでファイナライズされた DVD ± R/RW
AVCHD	AVCHD形式のDVD ± R/RW
ACD	オーディオ CD
MOVIE	動画ファイル
MUSIC	音声ファイル
PHOTO	画像ファイル

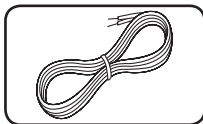
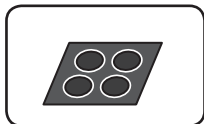
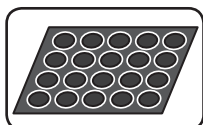
付属品を確認する

本体部

ビデオケーブル× 1

リモコン× 1

単 4 形乾電池× 1

FM アンテナ× 1

iPod クレードル× 1

スピーカー部（HTZ-HW919BD）

スピーカーケーブル（サブウーファー用）× 1

滑り止めパッド（サブウーファー用）× 4

滑り止めパッド（フロント用）× 2

ブラケット× 2

スピーカー部（HTZ-616BD）

スピーカーケーブル
・フロント用× 2
・センター用× 1
・サラウンド用× 2
・サブウーファー用× 1

滑り止めパッド（大）
× 4

滑り止めパッド（小）
× 20

本機で再生できるディスク

ブルーレイディスク
ブルーレイ 3D ディスク
- 販売やレンタルされている映画などのディスク
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された BD-R/RE ディスク
- BDMV、BDAV で記録された BD-R/-RE ディスク（BDMV と BDAV が混在して記録されたディスクは再生できません。）

DVD ビデオ（8 cm/12 cm ディスク）
- 販売やレンタルされている映画などのディスク

DVD-R（8 cm/12 cm ディスク）
- VR モードやビデオモードで記録され、ファイナライズされているディスク
- 二層ディスク
- ファイナライズ済み AVCHD フォーマット
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された DVD-R ディスク
- AVCREC フォーマットで記録された DVD-R ディスク

DVD+R（8 cm/12 cm ディスク）
- ビデオモードで記録され、ファイナライズされているディスク
- 二層ディスク
- ファイナライズ済み AVCHD フォーマット
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された DVD+R ディスク

DVD-RW（8 cm/12 cm ディスク）
- VR モードやビデオモードで記録され、ファイナライズされているディスク
- ファイナライズ済み AVCHD フォーマット
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された DVD-RW ディスク
- AVCREC フォーマットで記録された DVD-RW ディスク

DVD+RW（8 cm/12 cm ディスク）
- ビデオモードで記録され、ファイナライズされているディスク
- AVCHD フォーマット
- ファイナライズ済み AVCHD フォーマット
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された DVD+RW ディスク

Audio CD（8 cm/12 cm ディスク）

CD-R/RW（8 cm/12 cm ディスク）
- 音楽、動画、または画像ファイルが記録された CD-R/RW ディスク

お知らせ

- 記録機器またはディスクの状態によっては、本機で再生できないことがあります。
- ソフトウェアの記録方法やファイナライズによっては、記録したディスクが再生できないことがあります。
- ディスクが破損または汚れていたり、本機のレンズに汚れや結露があると、再生できないことがあります。
- パソコンを使って記録したディスクは、ディスクを作成する際に使用したアプリケーションのソフトウェアの設定によって、共通フォーマットで記録されていても再生できないことがあります。(詳細についてはソフトウェアの発売元にお問い合わせください。)
- Windows Vista® や Windows 7® の機能でディスクを記録する際にはマスタ形式を使用してください。ライブファイルシステム形式で記録されたディスクは再生できません。
- 高画質で再生するには、ディスクや記録方法が技術的な一定の基準を満たしている必要があります。
- 市販の DVD は、これらの基準が自動的に設定されています。記録可能なディスクのフォーマットには、多数の種類（MP3 や WMA のファイルを含む CD-R など）がありますが、再生の互換性を保つために、これらには特定の決まった条件があります。
- インターネットから MP3/WMA ファイルや音楽をダウンロードするには許諾が必要であることにご注意ください。当社にはそのような許諾を与える権限がありません。常に著作権所有者の許諾が必要になります。
- DRM(デジタル著作権管理) で保護されているファイルは再生できません。
- コピーコントロール CD について … この製品は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- 以下のディスクは本機で再生できません。
  - HD DVD
  - DVD Audio
  - DVD-RAM
  - SACD
  - SVCD
  - BDXL

本機で再生できるファイル

共通

再生できるファイルの拡張子

.jpg、.jpeg、.png、.avi、.divx、.mpg、.mpeg、.mkv、.mp4、.asf、.wmv、.m4v、.mp3、.wma、.wav、.m4a
使用可能なファイル拡張子は、DLNA サーバーによって異なります。

- 一部の .wav ファイルは、本機で再生できません。
- ファイル名は 180 文字以内に制限されます。
- ファイルのサイズと数により、読み込みに数分かかることがあります。

最大ファイル / フォルダ

2000 未満 (ファイルとフォルダの合計数)

CD-R/RW、DVD ± R/RW、BD-R/RE フォーマット

ISO 9660+JOLIET、UDF、および UDF ブリッジフォーマット

動画

再生可能解像度

1920 × 1080 ピクセル（幅×高さ）

再生可能字幕

SubRip (.srt / .txt)、SAMI (.smi)、SubStation Alpha (.ssa/.txt)、MicroDVD (.sub/.txt)、VobSub (.sub)、SubViewer 1.0 (.sub)、SubViewer 2.0 (.sub/.txt)、TMPlayer (.txt)、DVD Subtitle System (.txt)

- VobSub (.sub) はホームネットワーク上にあるコンテンツを再生したときには使用できません。

再生可能コーデックフォーマット

DIVX3.xx、DIVX4.xx、DIVX5.xx、DIVX6.xx (標準再生のみ)、XVID、H.264/MPEG-4 AVC、MPEG1 SS、MPEG2 PS、MPEG2 TS、VC-1 SM(WMV3)

再生可能オーディオフォーマット

Dolby Digital、DTS、MP3、WMA、AAC、AC3

- 一部の WMA および AAC オーディオフォーマットは、本機で再生できません。

サンプリング周波数

32 kHz ～ 48 kHz (WMA)
16 kHz ～ 48 kHz (MP3)

ビットレート

20 kbps ～ 320 kbps (WMA)
32 kbps ～ 320 kbps (MP3)

お知らせ

- HD ムービーファイルが CD または USB 1.0/1.1 に収録されている場合、ファイルが正常に再生されないことがあります。HD ムービーファイルの再生には、BD、DVD、または USB 2.0 を推奨します。
- 本機は、レベル 4.1 の H.264/MPEG-4 AVC メインプロファイルおよびハイプロファイルに対応しています。レベル 4.1 を越えるファイルは、画面に警告メッセージが表示されます。
- 本機は、GMC*1 または Qpel*2 で記録されたファイルは再生できません。これらは、DivX や XVID などの MPEG4 標準でのビデオエンコード技法です。
  *1 GMC - Global Motion Compensation
  *2 Qpel - Quarter pixel

音声

サンプリング周波数

32 kHz ～ 48 kHz (WMA)
16 kHz ～ 48 kHz (MP3)

ビットレート

20 kbps ～ 320 kbps (WMA)

32 kbps ～ 320 kbps (MP3)

お知らせ

- 本機は、MP3 ファイルに埋め込まれた ID3 タグをサポートしていません。
- VBR 形式のファイルを再生した場合、合計再生時間が画面に正しく表示されないことがあります。

画像

推奨サイズ

4000 × 3000 × 24 ビット/ピクセル未満
3000 × 3000 × 32 ビット/ピクセル未満

ファイルサイズ 4 MByte 未満

- プログレッシブおよび可逆圧縮写真画像ファイルはサポートしていません。

リージョンコードについて

本機の背面には、リージョンコードが印刷されています。この印刷と同じリージョンコードを含む、またはリージョンコード“ALL”の BD-ROM、DVD ディスクのみ再生できます。

AVCHD 規格 (Advanced Video Codec High Definition)

- 本機は、AVCHD 規格で記録されたディスクを再生できます。このディスクは通常、ビデオカメラの録画に使用されます。
- AVCHD 規格は、ハイビジョンデジタルビデオカメラの記録方式です。
- MPEG-4 AVC/H.264 フォーマットは、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮率で画像を圧縮できます。
- 本機は、「x.v.Color」規格を採用している AVCHD ディスクを再生できます。
- AVCHD 規格のディスクの中には、記録状態によって再生できないものもあります。
- AVCHD 規格のディスクは、ファイナライズされている必要があります。
- 「x.v.Color」は、通常の DVD ビデオカメラのディスクと比べ広い色域を提供できます。

高解像度の映像を再生するには

- コンポーネントまたは HDMI 入力端子を装備した高解像度ディスプレイが必要です。
- 高解像度コンテンツを収録した BD-ROM ディスクが必要です。
- コンテンツによっては、HDMI または HDCP 対応 DVI 入力端子のあるディスプレイが必要なときがあります（ディスク作成者により指定されています）。
- 標準解像度の DVD をアップコンバートした場合、コピーガードされた映像については、HDMI または HDCP 対応 DVI 入力端子のあるディスプレイが必要です。

互換性に関する注意

- BD-ROM は新しい規格のため、特定のディスク、デジタル接続、およびその他の互換性などで問題が発生する可能性があります。互換性による問題が発生したときは、弊社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。（裏表紙）
- 高解像度の映像やアップコンバートされた標準 DVD 映像を視聴する場合、HDMI に対応した入力端子、または HDCP 対応の DVI 入力端子のあるディスプレイが必要です。
- BD-ROM や DVD ディスクには、操作や機能の使用を制限するものもあります。

各部の名前とはたらき

リモコン

• • • • • • • 1 • • • • • •

⏻ 電源

本機の電源をオン / オフします。

⏏ 開 / 閉

ディスクトレイを開閉します。(35 ページ)

入力 /FM

入力モードを切り換えます。

BT AUDIO

入力モードを BT AUDIO に切り換えます。(29 ページ)

光入力

入力モードを光入力に切り換えます。

画面表示

画面表示を表示 / 終了します。

ホームメニュー

[ホームメニュー] を表示 / 終了します。

メニュー

ディスクのメニューを表示します。

∧/∨/</>

メニューの項目を選びます。

⦿ 決定

選んだ項目を実行します。

TUNE (+/ −)

ラジオの周波数を合わせます。(53 ページ)

PRESET

記憶させたラジオ放送局を呼び出します。(53 ページ)

2

準備

・・・・・・・ 2 ・・・・・・・

戻る

メニューの終了、またはレジューム再生をします。

ポップアップ / トップメニュー

DVD のタイトルメニューや BD-ROM にポップアップメニューがあるときは表示します。

■ 停止

再生を停止します。

▶ 再生

再生を開始します。

❚❚ 一時停止 / ステップ

再生を一時停止します。

⏮/⏭ 前 / 次

次または前のチャプター / トラック / ファイルに移動します。

◀◀/▶▶ 早戻し / 早送り

早戻し / 早送りをします。

CH レベル

スピーカーのサウンドレベルを設定します。

● USB 録音

USB 機器に CD の曲を録音します。(49 ページ)

消音

一時的に消音します。

サウンド

サウンドモードを設定します。(57 ページ)

音量 +/ −

スピーカーの音量を調整します。

・・・・・・・ 3 ・・・・・・・

数字ボタン

メニュー画面で項目を選ぶときなどに使います。

マーカー

再生中にお好きなシーンにマークを付けます。(38 ページ)

サーチ

検索メニューを表示 / 終了します。(38、39 ページ)

リピート

指定した箇所を繰り返し再生します。(38、52 ページ)

ディマー

本機の表示部とボリュームノブのあかりの明るさを調整できます。

ズーム

ズームインまたはズームアウトします。

クリア

検索メニューのマークや設定したパスワードを解除します。

カラーボタン (A/B/C/D)

メニューを操作するときに使用します。

- D ボタン(ステレオ / モノ)

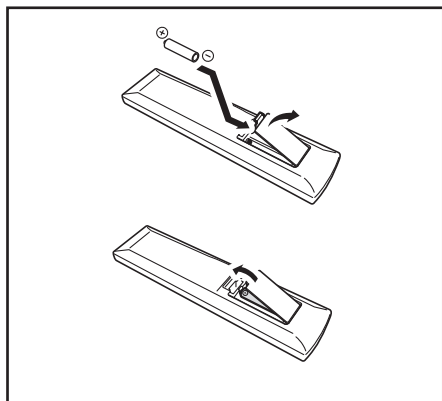
FM 放送のステレオ / モノラルを切り換えます。

テレビコントロールボタン

64 ページをご覧ください。

スリープ

スリープタイマーを設定します。

リモコンに電池を入れる

1. 裏ぶたを開ける

2. 付属の乾電池〈単４形× １個〉を入れる

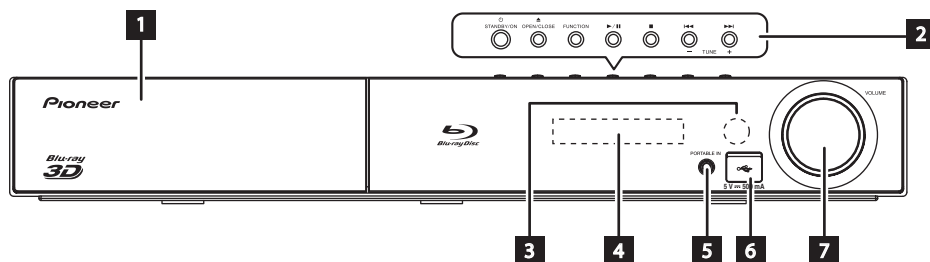
収納部の⊕⊖の表示どおりに正しく入れてください。

3. 裏ぶたを閉める

カチッと音がするまで確実に閉めてください。

ご注意

- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 電池をリモコン内にセットするときは、極性表示（⊕極と⊖極）に注意し、表示どおりに入れてください。
- 電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。
- 電池でリモコンのマイナス端子を押し曲げないようにしてください。電池がショートする可能性があります。
- 長い間 (1 カ月以上) リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。万一、漏れた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。
- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

本体前面

1 **ディスクトレイ**

2 **操作ボタン**（パネル上面）

⏻ STANDBY/ON
本機の電源をオン / オフします。

⏏ OPEN/CLOSE

FUNCTION
入力や機能を変更します。

►/❚❚（PLAY/PAUSE）

■（STOP）

⏮/⏭（SKIP）

TUNE – /+ (ラジオ選局)

3 **リモコン受光部**

4 **表示窓**
入力モードや本機機能の状態などが表示されます。

5 **PORTABLE IN 端子（3.5 mm ステレオミニプラグ）**

6 **USB 端子**

7 **ボリュームノブ**

注意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

D3-7-12-5-2a_A1_Ja

本体背面（HTZ-HW919BD）

1 AC 電源コード
コンセントに差し込みます。

2 スピーカー端子

3 冷却ファン

4 LAN（10/100）端子

5 光デジタル音声入力端子

6 HDMI 入力 1/ 入力 2 端子（タイプ A）

7 HDMI 出力端子 (タイプ A)
HDMI 入力端子を持つテレビと接続します。

8 映像出力端子（コンポジット）

9 FM アンテナ端子

10 AUX アナログ音声入力端子

11 コンポーネント映像出力端子
（Y、CB/PB、CR/PR）

12 iPod (24 pin) 端子
付属の iPod クレードルを接続します。

本体背面（HTZ-616BD）

1 AC 電源コード
コンセントに差し込みます。

2 スピーカー端子

3 冷却ファン

4 LAN（10/100）端子

5 光デジタル音声入力端子

6 HDMI 入力 1/ 入力 2 端子（タイプ A）

7 HDMI 出力端子 (タイプ A)
HDMI 入力端子を持つテレビと接続します。

8 映像出力端子（コンポジット）

9 FM アンテナ端子

10 AUX アナログ音声入力端子

11 コンポーネント映像出力端子
（Y、CB/PB、CR/PR）

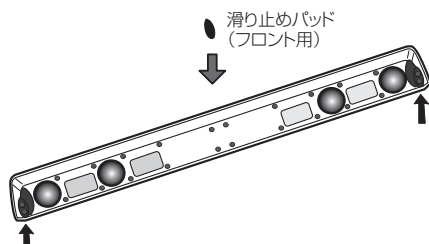
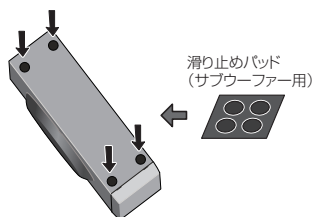
12 iPod (24 pin) 端子
付属の iPod クレードルを接続します。

3　接続

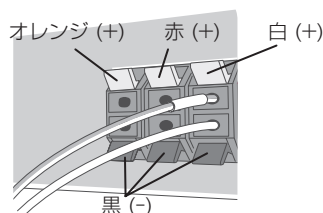
スピーカーの設置 (HTZ-HW919BD)

スピーカーの接続

1. 付属の滑り止めパッドを各スピーカーの底面に貼り付けます。

フロントスピーカー：
付属の滑り止めパッド（フロント用）を脚の下側に貼り付けてください。

サブウーファー：
付属の滑り止めパッド（サブウーファー用）を 4 カ所に貼り付けてください。

2. スピーカーケーブルを本機に接続します。

グレーラインが入った白色のスピーカーケーブルを (+) 側に、もう一方を (−) 側に接続します。ケーブルを本機に接続するには、プラスチック製のツメを押して端子を開きます。ケーブルを端子に挿入して、ツメを放します。
サブウーファーのスピーカーケーブル（紫色）はオレンジ色のスピーカー端子に挿入してください。

ご注意

- 本機に付属のスピーカー以外のスピーカーを接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されています。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

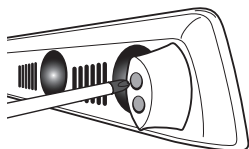
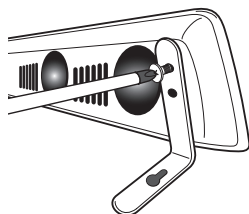
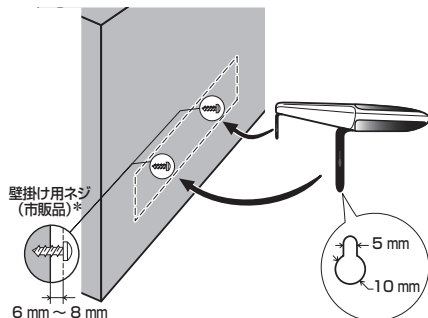
フロントスピーカーを壁に取り付ける

フロントスピーカーには取り付け用の穴があり、壁に取り付けることができます。

取り付ける前に

スピーカーシステムは重く、その重量でネジがゆるんだり、壁材がスピーカーを支えきれなくなり、スピーカーが落下する可能性があります。スピーカーを取り付ける壁面は、スピーカーを支えるのに十分な強度があることを確認してください。合板または柔らかい表面の壁には取り付けないでください。

取り付け用のネジは付属していません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重量を支えることのできるネジを使用してください。

1. 本体に取り付けてある脚のネジ 2 本をプラスドライバーで外します。

2. ブラケットを手順 1 で外したネジ 2 本で本機に固定します。

3. 壁に取り付けます。

壁掛け用ネジの間は 818 mmあけて取り付けてください。

ご注意

- 壁の材質や強度などがわからないときは、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備による事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

3 接続

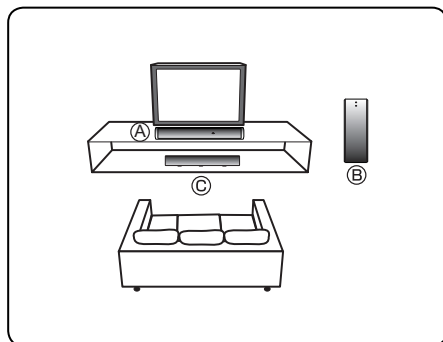
スピーカーの設置について

フロントスピーカーをテレビの中央下に設置します。

ご注意

- 本機のスピーカー端子に接続したあと、ケーブルを軽く引いて、ケーブルの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- ケーブルの芯線がはみ出して芯線どうしが触れたりすると、アンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- 本機のスピーカーは防磁型ではありませんので、テレビやモニターから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（磁気カード、腕時計、ビデオテープなど）は本機のスピーカーの近くに置かないでください。
- サブウーファーは壁や天井に取り付けないでください。落下してけがをしたり、スピーカーが破損する原因となります。

配置

最適なサラウンドサウンドを楽しむためには、下図の配置例のようにフロントスピーカーをテレビ画面の中央下に配置します。

Ⓐ **フロントスピーカー**

Ⓑ **サブウーファー（SW）：**

フロントスピーカーの近くに配置します。（低音はあまり指向性がないため、サブウーファーの位置はそれほど重要ではありません。）低音が壁に反射するのを抑えるために、部屋の中央に向くようにしてください。

Ⓒ **本体**

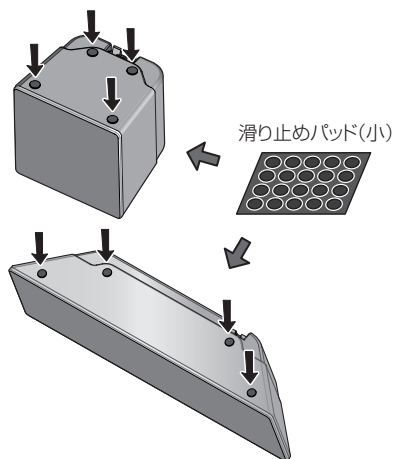
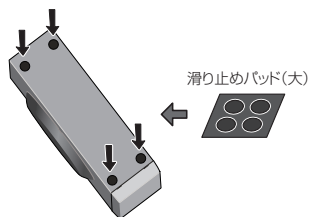
ご注意

- サブウーファーダクト*の中にお子さまが手や異物を入れないように注意してください。
  * サブウーファーダクト：低音の量を増やすためにサブウーファーキャビネット (エンクロージャ) にあいている穴
- スピーカーは、お子さまの手の届かない安全な場所に置いてください。スピーカーが落下して、けがをしたり、物が壊れたりする危険性があります。

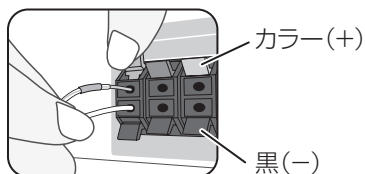
スピーカーの設置 (HTZ-616BD)

スピーカーの接続

1. 付属の滑り止めパッドを各スピーカーの底面に貼り付けます。

フロント / センター / サラウンドスピーカー：
付属の滑り止めパッド（小）を 4 カ所に貼り付けてください。

サブウーファー：
付属の滑り止めパッド（大）を 4 カ所に貼り付けてください。

2. スピーカーケーブルを本機に接続します。

グレーラインが入った白色のスピーカーケーブルを (+) 側に、もう一方を (−) 側に接続します。ケーブルを本機に接続するには、プラスチック製のツメを押して端子を開きます。ケーブルを端子に挿入して、ツメを放します。
サブウーファーのスピーカーケーブル（紫色）はオレンジ色のスピーカー端子に挿入してください。

ご注意

- 本機に付属のスピーカー以外のスピーカーを接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されています。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

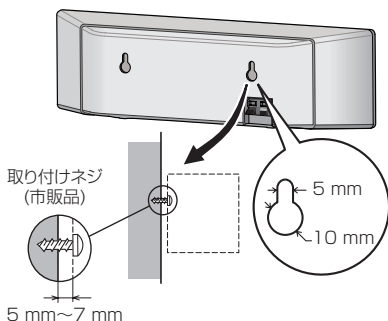
センタースピーカーを壁に取り付ける

センタースピーカーには取り付け用の穴があり、壁に取り付けることができます。

取り付ける前に

スピーカーシステムは重く、その重量でネジがゆるんだり、壁材がスピーカーを支えきれなくなり、スピーカーが落下する可能性があります。スピーカーを取り付ける壁面は、スピーカーを支えるのに十分な強度があることを確認してください。合板または柔らかい表面の壁には取り付けないでください。

取り付け用のネジは付属していません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重量を支えることのできるネジを使用してください。

ご注意

- 壁の材質や強度などがわからないときは、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備による事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

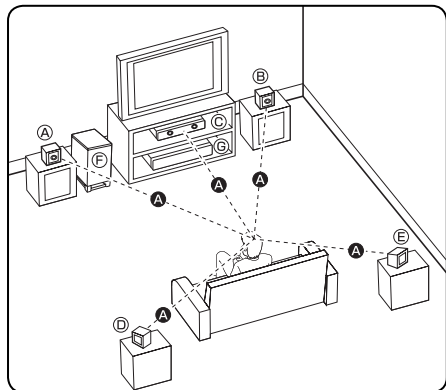
スピーカーの設置について

フロント左右のスピーカーをテレビから等距離に設置します。

ご注意

- 本機のスピーカー端子に接続したあと、ケーブルを軽く引いて、ケーブルの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- ケーブルの芯線がはみ出して芯線どうしが触れたりすると、アンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- 本機に付属のスピーカーは、設置のしかたによってはまれにテレビ画面に色むらが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15 分〜 30 分後再度電源を入れてください。そのあとも色むらが残るようでしたら、スピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。
- サブウーファーは防磁型ではありませんので、テレビやモニターから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（磁気カード、腕時計、ビデオテープなど）はサブウーファーの近くに置かないでください。
- フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーファーは壁や天井に取り付けないでください。落下してけがをしたり、スピーカーが破損する原因となります。

配置

最適なサラウンドサウンドを楽しむためには、下図の配置例のようにサブウーファー以外のスピーカーを視聴位置から等距離 (Ⓐ) に配置します。

Ⓐ フロント左スピーカー (L)/
Ⓑ フロント右スピーカー (R)：

モニターやスクリーンの横に配置して、できるだけ画面の表面とスピーカーの表面が揃うようにしてください。

Ⓒ センタースピーカー (C)：

モニターやスクリーンの上部または下部に配置します。

Ⓓ サラウンド左スピーカー (SL)/
Ⓔ サラウンド右スピーカー (SR)：

視聴位置よりも後ろに配置して、前面を少し内側に向けるようにします。

Ⓕ サブウーファー (SW)：

フロントスピーカーの近くに配置します。(低音はあまり指向性がないため、サブウーファーの位置はそれほど重要ではありません。）低音が壁に反射するのを抑えるために、部屋の中央に向くようにしてください。

Ⓖ 本体

ご注意

- サブウーファーダクト * の中にお子さまが手や異物を入れないように注意してください。
  * サブウーファーダクト：低音の量を増やすためにサブウーファーキャビネット (エンクロージャ) にあいている穴
- スピーカーをお子さまの手の届かない安全な場所に置いてください。スピーカーが落下して、けがをしたり、物が壊れたりする危険性があります。

テレビとの接続

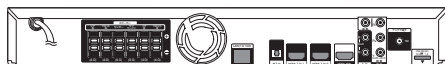
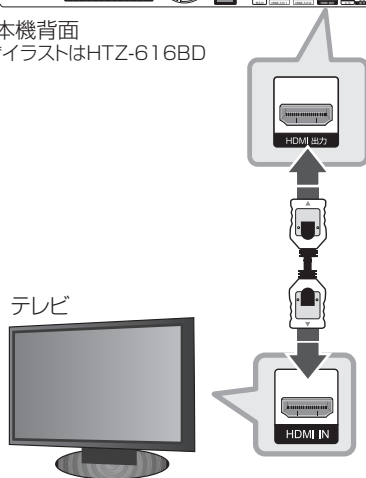
接続するテレビに応じて、以下のいずれかの接続を行ってください。

- HDMI ケーブルで接続する（24 ～ 25 ページ）
- コンポーネントビデオケーブルで接続する（25 ページ）
- ビデオケーブルで接続する（26 ページ）

お知らせ

- 接続するテレビやその他の周辺機器によって、本機への接続方法は数多くあります。以下で説明するいずれかの方法で接続してください。
- 正しく接続できるように、必要に応じてお持ちのテレビおよびその他の周辺機器の取扱説明書を参照してください。
- 本機は直接テレビに接続してください。
- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピー保護技術に対応しています。そのため、DVD レコーダー / ビデオデッキを通してテレビと接続したり、プレーヤーの出力を DVD レコーダー / ビデオデッキで録画して再生すると、映像が正しく映らないことがあります。また、本機をビデオ内蔵テレビに接続すると、コピー保護によって映像が正しく映らないことがあります。詳しくは、お使いのテレビメーカーにお問い合わせください。
- 本機でディスクを再生しているときに、HDMI 入力されたテレビからも音声が出力されますが、故障ではありません。

HDMI ケーブルで接続する

HDMI 入力端子のあるテレビやモニターをお持ちの場合は、HDMI ケーブルを使用して本機に接続できます。
本機の HDMI 出力端子と、テレビやモニターの HDMI 入力端子に接続します。

テレビの入力モードを HDMI に設定します（テレビの取扱説明書を参照してください）。

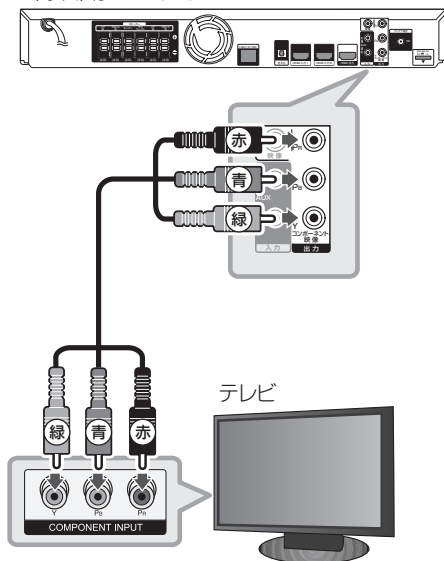
3 接続

お知らせ

- 接続後に解像度の切り換えを行うと、誤動作を起こすことがあります。この場合は、本機の電源を切ってから再度電源を入れてください。
- HDCP に対応していない機器には接続しないでください。画像が正常に表示されません。
- HDMI ケーブルは、ハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。それ以外の HDMI ケーブルでは、映像が正しく表示できないことがあります。
- ケーブルは端子にしっかりと接続してください。正しく接続しないと、音が歪んだり、出力されないことがあります。
- HDMI 接続のときは、HDMI 出力の解像度を切り換えることができます（26 ページ「解像度の設定」参照）。
- [設定メニュー] の [HDMI カラー設定] 項目で、HDMI 出力端子からの出力の種類を選択します（60 ページ参照）。
- HDMI や DVI 対応テレビに接続するときは、以下のことを確認してください。
  - まず本機と HDMI/DVI 対応テレビの電源を切ります。次に、HDMI/DVI 対応テレビの電源を入れ、30 秒ほど待ってから本機の電源を入れます。
  - 接続したテレビの映像入力が、本機用に正しく設定されているか確認します。
  - 接続するテレビは、720 × 480p、1280 × 720p、1920 × 1080i、1920 × 1080p の解像度の映像入力に対応します。
- HDCP 対応の HDMI や DVI 対応テレビのすべてが本機に対応しているわけではありません。
  - 対応テレビ以外では、黒い画面になるなど、画像が正しく表示されないことがあります。

コンポーネントビデオケーブルで接続する

コンポーネントビデオケーブルを使用して、本機のコンポーネント映像出力端子とテレビの入力端子を接続します。

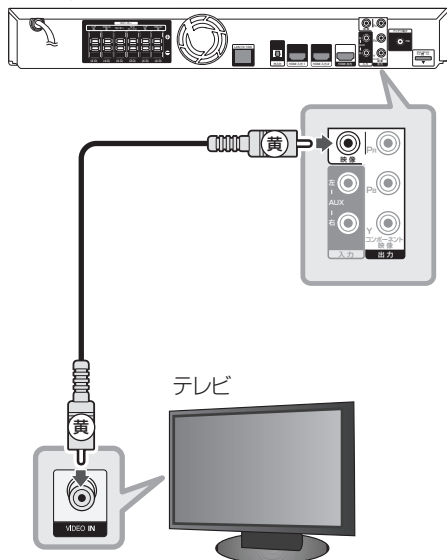
本機背面
*イラストはHTZ-616BD

お知らせ

コンポーネント映像出力端子を使用するときは、出力の解像度を切り換えることができます (26 ページ「解像度の設定」参照)。

3
接続

ビデオケーブルで接続する

ビデオケーブルを使用して、本機の映像出力端子とテレビの映像入力端子を接続します。

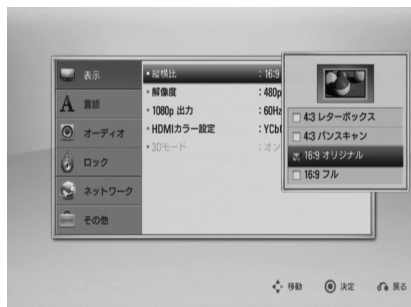
本機背面
*イラストはHTZ-616BD

解像度の設定

本機では、HDMI 出力およびコンポーネント映像出力端子から出力される映像の解像度を設定できます。
[設定] メニューで設定してください。

1. **ホームメニュー**を押します。

2. **∧/∨/</>** で [設定] を選んで、⦿ **決定**を押します。
[設定] メニュー画面が表示されます。

3. **∧/∨** で [表示] を選んで、**>** を押します。

4. **∧/∨** で [解像度] を選んで、⦿ **決定**または **>** を押します。

5. **∧/∨** で設定したい解像度を選んで、⦿ **決定**を押します。

お知らせ

- 解像度の設定を変更したらテレビに表示されなくなったときは、以下のように操作して解像度を 480p に変更できます。

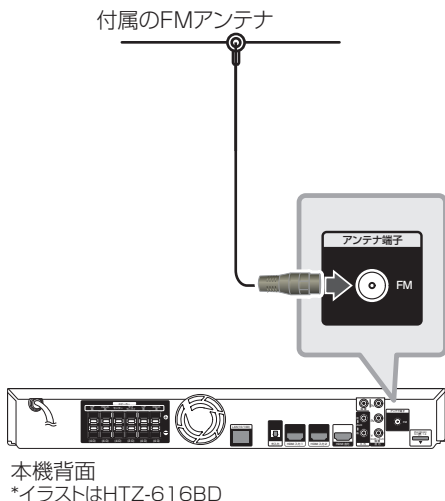
1. ▲ を押してディスクトレイを開きます。
2. ■（STOP）を 5 秒以上押し続けます。

- 解像度については、「映像出力解像度」（67 ページ）をご覧ください。

FM アンテナの接続

付属の FM アンテナを本機のアンテナ端子接続して FM ラジオ放送を聞くことができます。

FM ラジオの聴きかたについては、53 ページをご覧ください。

本機背面
*イラストはHTZ-616BD

お知らせ

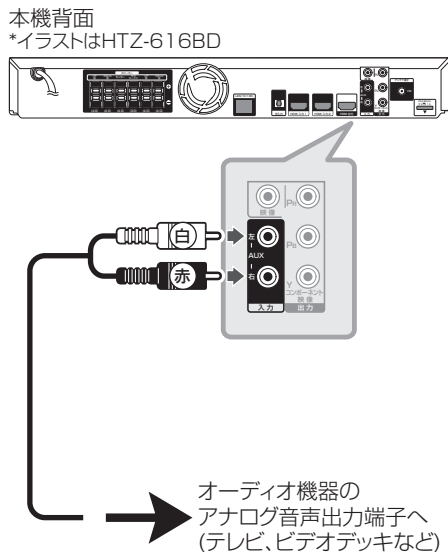
- FM アンテナは、たらしておいたり丸めたままにしないで、最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープなどで固定してください。
- 受信状態が改善しないときは、販売店とご相談のうえ、市販の FM アンテナをご購入ください。

外部機器の接続

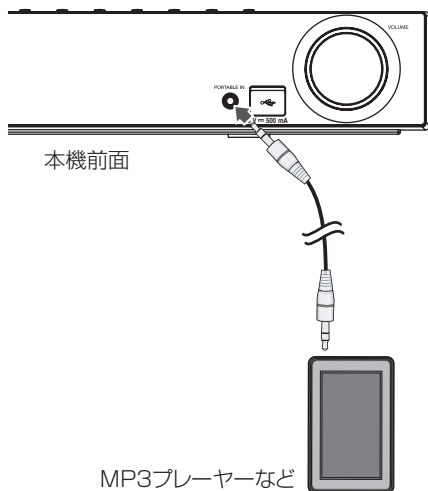
アナログオーディオ機器の接続

アナログ音声出力端子のあるオーディオ機器を本機の AUX 入力端子に接続して、その音声を楽しむことができます。

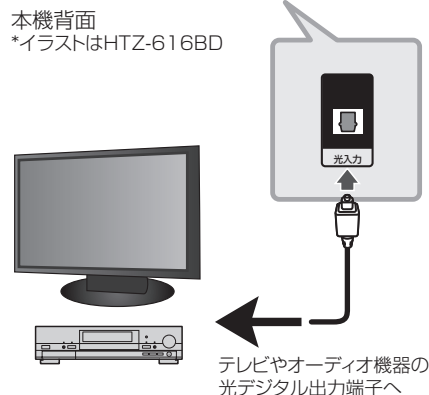
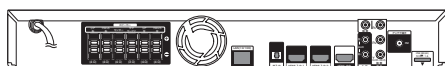
AUX 入力端子に接続した機器の音声を聞くには、**入力 /FM** を押して [AUX] を選んで、◉ **決定**を押します。

本機背面
*イラストはHTZ-616BD

ポータブルオーディオプレーヤーの接続

ポータブルオーディオプレーヤーを本機に接続して、その音声を楽しむことができます。本機の PORTABLE IN 端子とポータブルオーディオプレーヤーのヘッドフォン (またはライン出力）端子を接続します。

PORTABLE IN 端子に接続した機器の音声を聞くには、⊕ **入力 /FM** を押して [ポータブル] を選んで、◉ **決定**を押します。

テレビやデジタルオーディオ機器の接続

光デジタル音声出力端子のあるテレビやオーディオ機器を本機の光デジタル音声入力端子に接続して、その音声を楽しむことができます。

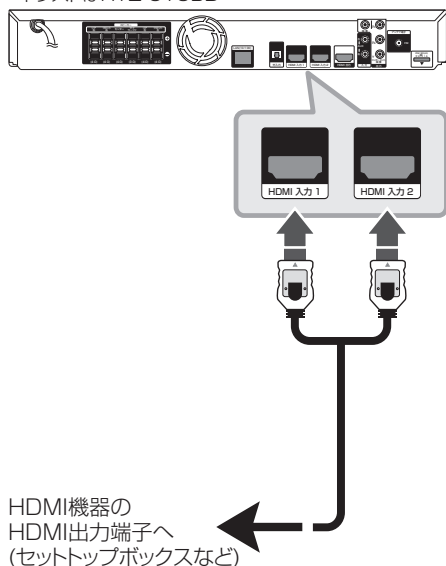
光デジタル音声入力端子に接続した機器の音声を聞くには、**光入力**を押してください。（⊕ **入力 /FM** を押して [光入力] を選んで、◉ **決定**を押して選ぶこともできます。）

お知らせ

- 本機に接続可能な光デジタルケーブルは、角形プラグタイプです。
- テレビにデジタル音声の出力に関する設定があることがあります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMI 機器の接続

HDMI 出力端子のある機器を本機の HDMI 入力 1/ 入力 2 端子に接続して、その音声と映像を楽しむことができます。

HDMI 入力 1/ 入力 2 端子に接続した機器の音声と映像を楽しむには、 **入力 /FM** を押して [HDMI 入力 1/ 入力 2] を選んで、 **決定**を押します。

本機背面
*イラストはHTZ-616BD

お知らせ

- HDMI 入力 1/ 入力 2 に入力された映像信号の解像度は、外部機器側で設定してください。
- HDMI 入力 1/ 入力 2 に入力された映像信号は、本機の映像出力やコンポーネント映像出力からは出力されません。

Bluetooth® 接続

Bluetooth 機能について

Bluetooth 機能は、近距離の接続に使用する無線接続技術です。

対応距離は 10 メートルです。(他の電波によって接続が干渉されたり他の部屋で Bluetooth 接続を行ったりすると、音声がとぎれることがあります。) Bluetooth 無線技術を使用して機器を接続しても、他の設定は変更されません。

使用可能な機器：*Bluetooth* に対応した携帯電話、MP3 プレーヤー、ノートパソコン、PDA

Bluetooth プロファイル

本機は、以下のプロファイルに対応しています。

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

Bluetooth 対応機器で音楽を聴く

本機と *Bluetooth* 対応機器とのペアリング（初期登録）

ペアリングを開始する前に、*Bluetooth* 対応機器の *Bluetooth* 機能がオンになっていることを確認してください。詳細については、*Bluetooth* 対応機器の取扱説明書を参照してください。ペアリング操作は、1 回行えば次回からは不要です。

1. **BT AUDIO** を押すか、 **入力 / FM** を繰り返し押して、入力モードを BT AUDIO に切り換えます。
   本機の表示窓には、「BT AUDIO」と表示されたあとに「BT READY」と表示されます。

2. *Bluetooth* 機器を操作して、ペアリング操作を行います。*Bluetooth* 機器で本機を検索するときに、*Bluetooth* 機器のタイプによっては、*Bluetooth* 機器側の表示部に対応機器の一覧が表示されることがあります。本機は「PIONEER AUDIO」と表示されます。

3. PIN コードを入力します。
PIN コード：0000
本機は 0000 以外の PIN コードは設定できません。

4. 本機と *Bluetooth* 機器とのペアリングに成功すると、本機の表示窓に「BT SINK」と表示されます。

お知らせ

Bluetooth 機器のタイプによっては、ペアリング方法が異なることがあります。

5. *Bluetooth* 機器で音楽を再生します。
再生のしかたは、*Bluetooth* 機器の取扱説明書を参照してください。

お知らせ

本機は AVRCP 機能に対応していません。

本機の *Bluetooth* 情報の確認

画面表示を押すことで本機の表示窓にデバイスアドレスを表示させることができます。

お知らせ

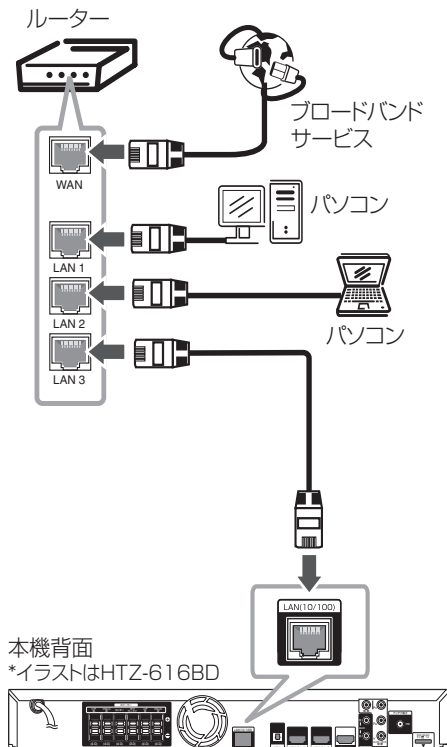
- 本機は、Mono Headset Profile (Hands Free Profile) には対応していません。
- 本機で *Bluetooth* 機器を操作することはできません。
- 本機でワンセグの音声を *Bluetooth* 機能で聴くことはできません。SCMS-T 方式でコンテンツ保護されている音楽を聴くことはできません。
- 本機でペアリングできる *Bluetooth* 機器は 1 台のみで、複数台とのペアリングはできません。
- *Bluetooth* 機器のタイプによっては、*Bluetooth* 機能を使用できないことがあります。
- *Bluetooth* 接続をしていないときは、本機の表示窓に「BT READY」と表示されます。
- 他の電波によって接続が干渉されると、音声がとぎれることがあります。
- 医療機器、電子レンジ、無線 LAN 装置など、同じ周波数を使用している装置による影響で誤動作が起きたときは、*Bluetooth* 接続が切断されます。
- *Bluetooth* 機器と本機との距離が 10 メートル以内であっても、間に障害物があると、*Bluetooth* 機器を接続できません。
- *Bluetooth* 機器と本機との間に障害物が入って通信が遮断されると、*Bluetooth* 接続が切断されます。
- *Bluetooth* 機器と本機との距離が離れると音質が低下し、*Bluetooth* 機器と本機との距離が動作範囲を超えると切断されます。
- 本機の電源を切ったときや、*Bluetooth* 機器を 10 メートル以上離すと、機器との接続が切断されます。

インターネット接続

本機は背面の LAN 端子から、ローカルエリアネットワーク（LAN）に接続できます。

詳しい手順については、ネットワーク機器の取扱説明書を参照してください。

LAN ケーブルを使用して、本機の LAN 端子と、お持ちのモデムまたはルーターの LAN 端子を接続してください。

LAN ケーブルは、RJ45 形状のコネクターで、カテゴリー 5（CAT5）準拠以上のストレートケーブルを使用してください。

お知らせ

- インターネットに接続するときは、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約・料金が別途必要です。
- LAN ケーブルの抜き差しは、プラグ部分を持って行ってください。LAN ケーブルを抜くときは、ケーブルを引かずにプラグのツメを押しながら抜いてください。
- 電話用のモジュラーケーブルを LAN 端子に接続しないでください。
- 接続方法にはいろいろな方法がありますので、お客様がご利用されている電話会社や、インターネットサービスプロバイダーの仕様に従ってください。
- パソコンまたは DLNA サーバーのコンテンツにアクセスするときは、本機をそれらの機器と同じ LAN ネットワークに接続する必要があります。

ネットワーク設定

ローカルエリアネットワーク（LAN）上に DHCP サーバーがあるときは、自動的に本機に IP アドレスが割り当てられます。機器を接続したあと、ホームネットワークで本機のネットワーク設定が必要なことがあります。以下のように [ネットワーク] 設定を変更します。

1. [設定] メニューの [接続設定] を選んで、⦿ **決定**を押します。

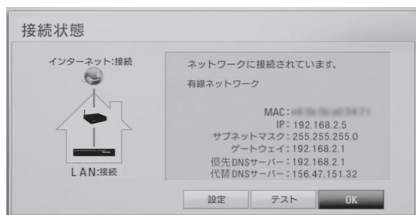
2. IP モードから ∧/∨/</> で [自動] または [固定] を選びます。
通常は [自動] を選択して、IP アドレスを自動的に割り当てられるようにします。

お知らせ

ネットワーク上に DHCP サーバーがなく、IP アドレスを手動で設定するときは、[固定] を選んで、**</>/∧/∨** と**数字ボタン**を使用して [IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]、[DNS サーバー] を設定してください。間違った数字を入力したときは、**クリア**を押してハイライト表示されている部分を消去します。

3. [OK] を選んで ⦿ **決定**を押して、ネットワーク接続設定を適用します。

4. 下記の画面が表示されます。
[OK] を選んで ⦿ **決定**を押すと、ネットワーク接続が完了します。

5. 手順 4 で [テスト] を選んで ⦿ **決定**を押すと、下記の画面が表示されます。
[設定] メニューの [接続ステータス] 画面でもテストを行うことができます。

ネットワーク接続に関する注意

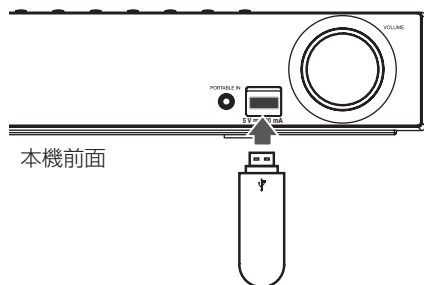
- ネットワークに接続できなくなったときは、ルーターやモデムをリセットすると、ネットワーク接続設定を解決できることがあります。本機の電源を切るか、ホームネットワークのルーターやケーブルモデムの電源ケーブルを抜いてください。次に、本機の電源を入れるか、ルーターやケーブルモデムの電源ケーブルを差し込んでください。
- インターネットサービスプロバイダーによっては、インターネットに接続できる機器の数が限られていることがあります。詳細については、お使いのインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。
- 弊社は、お客様がご利用されているブロードバンド回線での接続、またはその他接続機器から起こる通信エラーや故障による、本機およびインターネット接続の不具合について一切の責任を負いません。
- 弊社では、インターネット接続機能からご利用できる BD-ROM ディスク機能の作成や提供は行っておりません。また、それらの機能や将来の利用性などについての責任も負いません。インターネット接続でご利用可能なディスク関連のコンテンツの中には、本機と互換性のないものもあります。このようなコンテンツについてのご質問は、ディスクの製造元にお問い合わせください。
- インターネットのコンテンツには、ブロードバンド接続が必要なものもあります。
- 正しく接続や設定がされているときでも、インターネットの回線の状態により正常に動作しないことがあります。
- ブロードバンド回線の接続を提供しているインターネットサービスプロバイダーの制限により、インターネット接続の操作が正しくできない場合もあります。
- 接続料やその他インターネットサービスプロバイダーより請求される手数料は、すべてお客様のご負担となります。

- 本機との接続には 10BASE-T または 100BASE-TXのLAN端子が必要です。ご利用のインターネットサービスがこれらの接続に対応していないときは、本機との接続はできません。
- xDSL サービスをご利用になるには、ルーターが必要です。
- DSL サービスをご利用するには DSL モデムが必要です。またケーブルモデムサービスをご利用するにはケーブルモデムが必要です。ご利用のインターネットサービスプロバイダーのアクセス方法と契約内容によっては、本機に搭載されているインターネット接続の機能をご利用できなかったり、同時に接続できる機器の数が制限されている可能性もあります（ご利用のインターネットサービスプロバイダーの契約が 1 台のみの接続に制限されているときは、パソコンの接続中に本機を接続できない可能性があります）。
- ご利用のインターネットサービスプロバイダーの規制や制限によっては、「ルーター」を使用できない、またはルーターの使用が制限されている可能性があります。詳細については、ご利用のインターネットサービスプロバイダーに直接お問い合わせください。
- ローカルエリアネットワーク上で使用していないネットワーク機器は、電源を切ってください。機器の中には、ネットワークトラフィックを生成しているものもあります。

USB 機器の接続

本機は、USB 機器に記録した動画、音楽、写真などのファイルを再生できます。各ファイルの再生手順については、それぞれの関連ページを参照してください。

1. USB 機器を本機前面のUSB 端子にしっかりと差し込みます。

本機前面

2. ⌂ **ホームメニュー**を押します。

3. **∧/∨/</>** で [動画]、[写真]、[音楽] のいずれかを選んで、⦿ **決定**を押します。

4. **∧/∨** で [USB] を選んで、⦿ **決定**を押します。

5. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、► **再生**または ⦿ **決定**を押してファイルを再生します。
画面でUSB 機器の容量を確認できます。

6. 他のモードを選択します。
USB 機器を取り外します。

お知らせ

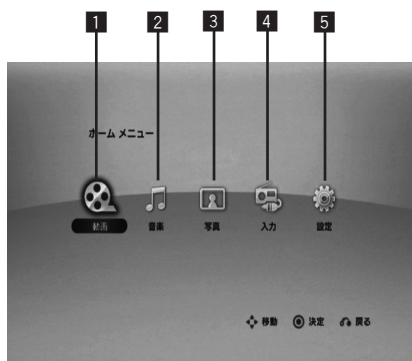
- 本機は FAT16、FAT32、NTFS 形式の USB フラッシュメモリ /USB 外付けハードディスクに対応しています。ただし、BD-Live およびオーディオ CD コピーは、NTFS 形式には対応していません。
- USB 機器は、インターネットで BD-Live のディスクを楽しむためのローカル記憶領域に使用できます。
- 本機は、USB 機器のパーティションを最大 8 つまでサポートしています。
- 再生などの動作中に、USB 機器を取り外さないでください。
- パソコンに接続すると、追加プログラムのインストールが必要となる USB 機器には対応していません。
- USB1.1 および USB2.0 に対応した USB 機器が接続できます。
- USB 機器に収録されたデータの損失を防ぐために、定期的なバックアップをお勧めします。
- 本機ではすべての USB メモリーの再生、および電源の供給を保証できないことがあります。本機と接続したしたことで USB メモリーのファィルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- USB 延長ケーブル、USB ハブ、または USB マルチリーダーを使用すると、USB 機器が認識されないことがあります。
- USB 機器によっては、本機で動作しないことがあります。
- デジタルカメラおよび携帯電話はサポートしていません。
- 本機の USB 端子とパソコンは接続できません。
- USB フラッシュメモリ /USB 外付けハードディスクに保存された AVCHD コンテンツは再生できません。

4 再生

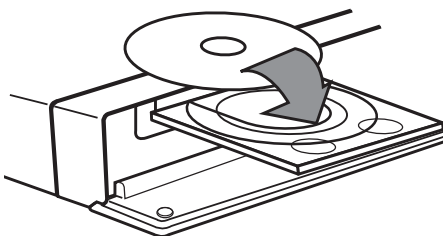
基本操作

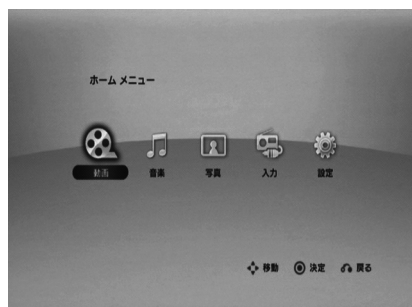
ホームメニューを使う

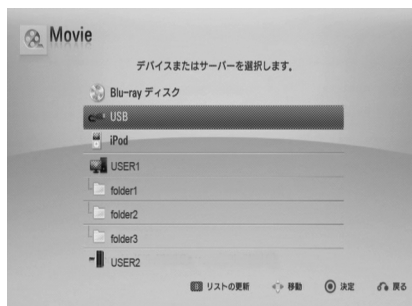
ホームメニューを押すと、ホームメニュー画面が表示されます。

∧/∨/</> で操作したいメニューを選んで、◉ **決定**を押します。

1	**[動画]** – 動画再生画面を表示します。
2	**[音楽]** – 音楽再生画面を表示します。
3	**[写真]** – 写真再生画面を表示します。
4	**[入力]** – 入力を切り換えるときに表示します。
5	**[設定]** – 設定を変更するときに表示します。

ディスクの再生

1. ⏏ **開/閉**を押してディスクトレイを開き、ディスクを置きます。

2. ⏏ **開/閉**を押してディスクトレイを閉じます。
   ディスクトレイを閉じると、自動で再生が始まるディスクもあります。

3. **ホームメニュー**を押します。

4. **∧/∨/</>** で [動画]、[写真]、[音楽] のいずれかを選んで、◉ **決定**を押します。

5. **∧/∨** で再生したいソースを選んで、◉ **決定**を押します。

複数の機器を接続しているときは、上記のように表示されます。

6. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、▶ **再生**または ◉ **決定**を押して再生を開始します。

お知らせ

- 本書で説明している再生機能がすべてのファイルやメディアで使用できるわけではありません。一部の機能は制限されることがあります。
- BD-ROM のタイトルによっては、USB 機器の接続が必要なものもあります。
- ファイナライズされていない DVD VR フォーマットは再生できません。

再生の停止

再生中に ■ **停止**を押します。

再生の一時停止

再生中に ❙❙ **一時停止 / ステップ**を押します。

▶ **再生**を押すと、ふたたび再生を開始します。

コマ送り再生

一時停止中に ❙❙ **一時停止 / ステップ**を押します。

繰り返し押すと、連続してコマ送りができます。

早送り / 早戻し

再生中に ◀◀ **早戻し**または ▶▶ **早送り**を押します。

繰り返し押すと、再生速度を変更できます。

- お客様が記録したディスクによっては、再生速度を変更できないことがあります。

スロー再生

一時停止中に ▶▶ **早送り**を押します。

次または前のチャプター / トラック / ファイルに移動

再生中に ▶▶❙ **次**を押すと、次のチャプター / トラック / ファイルに移動します。

再生中に ❙◀◀ **前**を押すと、チャプター / トラック / ファイルの先頭に戻ります。短い間隔で ❙◀◀ **前**を 2 回押すと、前のチャプター / トラック / ファイルに戻ります。

ディスクメニューの使用

BD DVD AVCHD

ディスクメニュー画面の表示

ディスクメニューが収録されているディスクを再生すると、はじめにメニュー画面が表示されます。再生中にメニューを表示させるときは、**メニュー**を押してください。

∧/∨/</> でメニュー項目を移動できます。

ポップアップメニューの表示

BD-ROM によっては、再生中にポップアップメニューを表示できます。

再生中に**ポップアップ / トップメニュー**を押すと、ポップアップメニューが表示されます。**∧/∨/</>** でメニュー項目を選びます。

停止した場所から再生する（続き再生）

BD DVD AVCHD MOVIE ACD MUSIC

本機は停止した位置を記憶します。

■ **停止**を押すと再生が停止し、画面に ❚❚■ が表示されます。▶ **再生**を押すと、停止位置から再生が再開されます。

■ **停止**を 2 回押すか、ディスクを取り出すと、画面に ■ が表示されます。記憶した停止位置は解除されます。

お知らせ

- ⏻ **電源**を押すと、停止位置の記憶が解除されることがあります。
- BD-J（Java）を含む BD ビデオディスクでは、本機能は動作しません。
- BD-ROM のインタラクティブタイトルでは、再生中に ■ **停止**を押すと、本機は完全な停止モードになります。
- 再生途中でディスクを取り出したり、電源を切ったりしても、自動的に最後に再生していた位置は記憶されます（39 ページ「ラストシーンメモリー」参照）。

応用操作

リピート再生

BD DVD AVCHD ACD MUSIC

再生中に **リピート**を押して、リピートモードを選びます。

BD/DVD

A – 指定した箇所を繰り返し再生します。

チャプター – 再生中のチャプターを繰り返し再生します。

タイトル – 再生中のタイトルを繰り返し再生します。

通常の再生に戻すときは、**リピート**を押して [**オフ**] を選びます。

オーディオ CD/ 音楽ファイル

Track – 再生中のトラックを繰り返し再生します。

All / – すべてのトラックまたはファイルを繰り返し再生します。

– トラックまたはファイルを順不同に再生します。

All – すべてのトラックまたはファイルを繰り返しランダム再生します。

A–B – 指定した箇所をランダム再生します。(オーディオ CD のみ)

通常の再生に戻すときは、**クリア**を押します。

お知らせ

- チャプター / トラックのリピート再生中に ►►❘ **次**を 1 回押すと、リピート再生が取り消されます。
- ディスクまたはタイトルによっては、リピート再生が動作しないことがあります。

4

再生

指定箇所のリピート再生

BD **DVD** **AVCHD** **ACD**

再生したい部分を指定して、その指定した部分を繰り返し再生できます。

1. 再生中に、再生したい区間の開始地点で **リピート**を押して [A-] を選びます。
   次に、◉ **決定**を押します。
2. 再生したい区間の終了地点で ◉ **決定**を押します。
   選択した部分が繰り返し再生されます。
3. 通常の再生に戻すには、**リピート**を押して [オフ] を選択するか、**クリア**を押します。

お知らせ

3 秒以内の短い区間は指定できません。

マーカーサーチ

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

マーカーを入力すると、最大 9 カ所の位置から再生を開始できます。

マーカーの入力方法

1. 再生中に、登録したい地点で**マーカー**を押します。マーカーアイコンが一時的に画面に表示されます。
2. 手順 1 を繰り返すことで、最大 9 カ所のマーカーを登録できます。

マーカーした場面の頭出し

1. **サーチ**を押すと、画面にサーチメニューが表示されます。
2. **数字ボタン**を押して、頭出ししたいマーカーの番号を選びます。登録した場面から再生を開始します。

マーカーした場面の解除

1. **サーチ**を押すと、画面にサーチメニューが表示されます。

2. ∨ を押して、登録された番号をハイライト表示します。**</>** で解除したい登録番号を選びます。
3. **クリア**を押すと、サーチメニューから登録した場面が消去されます。

お知らせ

- ディスク、タイトル、サーバーによっては、マーカーサーチが動作しないことがあります。
- 完全停止 (■) モード、タイトルの変更、ディスクを取り出したときには、登録したマーカー位置はすべて解除されます。
- タイトル全体の長さが 10 秒以下のときは、マーカーサーチは使用できません。

サーチメニューを使う

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

サーチメニューを使用して、再生を開始するポイントを簡単に見つけることができます。

再生ポイントの検索

1. 再生中に、**サーチ**を押すとサーチメニューが表示されます。

2. **</>** を押すと、再生を前方向または後方向に 15 秒スキップします。**</>** を押し続けると、スキップするポイントを選択できます。

マークされたシーンからの再生

1. **サーチ**を押すと、画面にサーチメニューが表示されます。
2. ∨ を押して、マークされた番号をハイライト表示します。**</>** を押して、再生を開始したいマーク位置を選びます。
3. ⦿ **決定**を押して、マークされたシーンから再生を開始します。

お知らせ

- ディスク、タイトル、サーバーによっては、本機能が動作しないことがあります。
- ファイルタイプや DLNA サーバーの能力によっては、本機能が動作しないことがあります。

拡大・縮小する

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE** **PHOTO**

再生または一時停止中の画面を拡大できます。

1. 再生または一時停止中に**ズーム**を押すと、ズームメニューが表示されます。
2. A（赤）ボタンまたは B（緑）ボタンを押すと、ズームインまたはズームアウトします。**∧/∨/</>** で表示を動かしてください。
3. C（黄）ボタンを押すと元の画面に戻ります。
4. ↶ **戻る**を押して、ズームメニューを終了します。

ラストシーンメモリー

BD **DVD**

本機は、再生途中でディスクを取り出したり、電源を切ったりしても、最後に再生していた位置を自動的に記憶しています。再度同じディスクを入れたときに同じ位置から再生を開始します。

お知らせ

- 別のディスクを再生すると、前回再生したディスクのメモリーは消去されます。
- ディスクによっては、本機能が動作しないことがあります。
- 再生前に電源を切ると、ラストメモリーは記憶されません。

字幕ファイルの選択

MOVIE

動画ファイルと字幕ファイルの名前が同じときは、動画ファイルの再生時に字幕ファイルが自動的に再生されます。

字幕ファイル名が動画ファイル名と異なるときは、動画を再生する前に [動画] メニューで字幕ファイルを選択する必要があります。

1. **∧/∨/</>** で [動画] メニューで再生する字幕を選びます。
2. ⦿ **決定**を押します。

動画ファイルの再生時に、選択された字幕ファイルが表示されます。

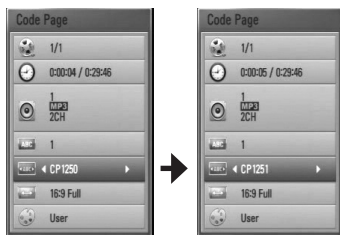
お知らせ

- 再生中に ■ **停止**を押すと、字幕ファイルの選択が取り消されます。
- DLNA サーバーにあるコンテンツを再生したときには、本機能は動作しないことがあります。

字幕コードページの変更

MOVIE

字幕ファイルを正常に表示するために字幕コードページを変更できます。

1. 再生中に、 **画面表示**を押すとオンスクリーン画面が表示されます。
2. ∧/∨ で [DivX コード用ページ] を選びます。
3. </> で設定したい字幕コードページを選びます。

4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

オンスクリーン画面

コンテンツに関係する情報や設定を表示したり、さまざまな調整を行うことができます。

コンテンツ情報のオンスクリーン表示

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

1. 再生中に、 **画面表示**を押すとオンスクリーン画面が表示されます。

1 **[タイトル]** – 再生中のタイトル番号 / タイトルの合計数

2 **[チャプター]** – 再生中のチャプター番号 / チャプターの合計数

3 **[時間]** – 再生経過時間 / 合計再生時間

4 **[オーディオ]** – 選択されている音声言語、音声トラックまたは音声チャンネル

5 **[字幕]** – 選択されている字幕

6 **[アングル]** – 選択されているアングル / アングルの合計数

7 **[縦横比]** – 選択されている縦横比

8 **[ピクチャーモード]** – 選択されているピクチャーモード

4 再生

2. **∧/∨** で項目を選びます。

3. **</>** で選択された項目を設定します。

4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

お知らせ

- 何も操作していない状態が数秒続くと、オンスクリーン画面は消えます。
- タイトル番号を選択できないディスクもあります。
- コンテンツ情報の項目を選択できないディスクやタイトルがあります。
- インタラクティブ機能を持ったタイトルを再生すると、画面に設定情報が表示されますが、本機では変更できません。

指定した時間からの再生

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

1. 再生中に **画面表示**を押します。
時間検索ボックスに、再生経過時間が表示されます。

2. [時刻] を選んで、希望の開始時間を左から右へ、時、分、秒の順で入力します。

たとえば、2 時間 10 分 20 秒のシーンを指定するときは、“21020” と入力します。

</> を押すと、前後に 60 秒スキップすることもできます。

3. ⦿ **決定**を押して、選んだ時間から再生を開始します。

お知らせ

- ディスクまたはタイトルによって、この機能が動作しないことがあります。
- ファイルタイプや DLNA サーバーの能力によっては、本機能が動作しないことがあります。

音声の切り換え

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

1. 再生中に、 **画面表示**を押します。
オンスクリーン画面が表示されます。

2. **∧/∨** で [オーディオ] を選びます。

3. **</>** で設定したい音声言語、音声トラック、または音声チャンネルを選びます。

お知らせ

- ディスクによっては、音声の選択がディスクメニューからしかできないものがあります。このときは、**ポップアップ / トップメニュー**または**メニュー**を押して、ディスクメニューから希望の音声を選んでください。
- 音声を切り換えた直後に、映像と実際の音声が一時的にずれることがあります。
- BD-ROM ディスクがマルチオーディオフォーマット（5.1ch または 7.1ch）のときは、ディスプレイに [MultiCH] と表示されます。

字幕の切り換え

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

1. 再生中に、 **画面表示**を押します。
オンスクリーン画面が表示されます。

2. **∧/∨** で [字幕] を選びます。

3. **</>** で設定したい字幕を選びます。

4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

お知らせ

ディスクによっては、字幕の選択がディスクメニューからしかできないものがあります。このときは、**ポップアップ / トップメニュー**または**メニュー**を押して、ディスクメニューから希望の字幕を選んでください。

アングルの切り換え

BD **DVD**

ディスクに複数のカメラアングルから記録されたシーンがあるときは、再生中にカメラアングルを切り換えることができます。

1. 再生中に、**画面表示**を押します。
   オンスクリーン画面が表示されます。
2. ∧/∨ で [アングル] を選びます。
3. </> で設定したいアングルを選びます。
4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

縦横比の変更

BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

再生中に縦横比を変更できます。

1. 再生中に、**画面表示**を押します。
   オンスクリーン画面が表示されます。
2. ∧/∨ で [縦横比] を選びます。
3. </> で設定したい縦横比を選びます。
4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

お知らせ

オンスクリーン画面で [縦横比] の値を変更しても、[設定] メニューの [縦横比] は変更されません。

ピクチャーモードの変更

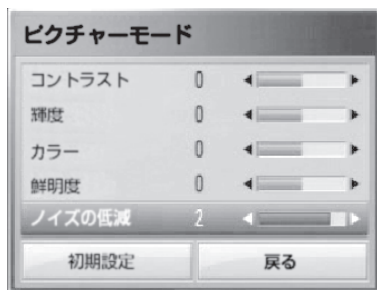
BD **DVD** **AVCHD** **MOVIE**

再生中にピクチャーモードを変更できます。

1. 再生中に、**画面表示**を押します。
   オンスクリーン画面が表示されます。
2. ∧/∨ で [ピクチャーモード] を選びます。
3. </> で設定したい項目を選びます。
4. **戻る**を押して、オンスクリーン画面を終了します。

[ユーザー設定] での調整

[ユーザー設定] を選ぶと、映像の見えかたを詳細に調整できます。

1. 再生中に、**画面表示**を押します。
   オンスクリーン画面が表示されます。
2. ∧/∨ で [ピクチャーモード] を選びます。
3. </> で [ユーザー設定] を選んで、**決定**を押します。

4. ∧/∨/</> で各項目を調整します。

   [初期設定] を選んで **決定**を押すと、すべての調整がリセットされます。
5. ∧/∨/</> で [閉じる] を選んで、**決定**を押して設定を終了します。

4 再生

BD-Live を楽しむ

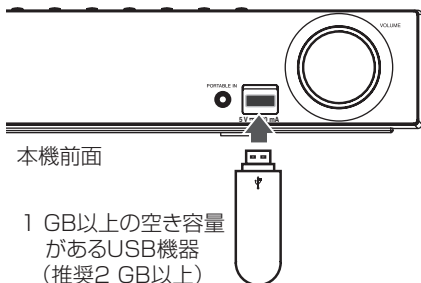
本機では、BONUSVIEW（BD-ROM version 2 Profile 1 version 1.1/ Final Standard Profile）に対応している BD ビデオでピクチャー・イン・ピクチャー、第 2 音声、仮想パッケージなどの機能をお楽しみいただけます。

第 2 映像および第 2 音声は、ピクチャー・イン・ピクチャー機能に対応しているディスクから再生できます。再生方法については、ディスクの取扱説明書を参照してください。

BD-Live (BD-ROM version 2 Profile 2) をサポートするディスクでは、BONUSVIEW 機能に加え、インターネットに接続することで、映画の予告編のダウンロードなど、豊富な機能をお楽しみいただけます。

1. ネットワーク接続および設定を確認します。(31 ～ 33 ページ参照)

2. USB 機器を、本機の前面にある USB 端子に差し込みます。

USB 機器は、ボーナスコンテンツのダウンロードに必要です。

3. **ホームメニュー**を押して、[設定] メニューから [BD LIVE 接続] を選びます。（62 ページ参照）

[BD LIVE 接続] の設定が「一部許可」に設定されていると、ディスクによっては BD-Live 機能が動作しないことがあります。

4. BD-Live 対応の BD-ROM を挿入します。

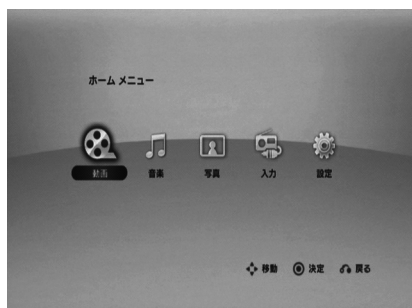
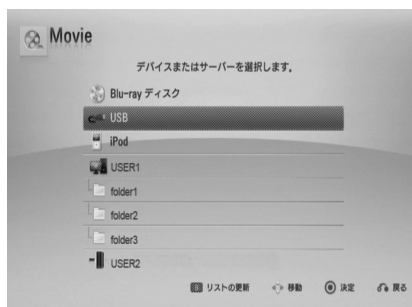
ディスクによって操作が異なります。ディスクの取扱説明書を参照してください。

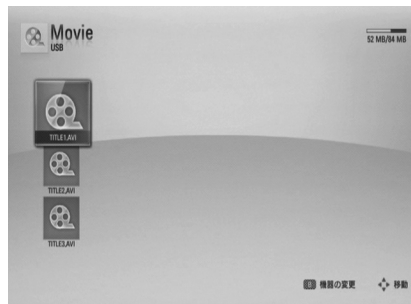
お知らせ

- コンテンツのダウンロード中やディスクトレイに Blu-ray ディスクが入っている状態で、接続されている USB 機器を取り外さないでください。USB 機器に不具合がおきたり、BD-Live 機能が正常に機能しなくなることがあります。このようなときは、USB 機器をパソコンでフォーマットし直してください。（ファイルフォーマット FAT16、FAT32）
- 特典コンテンツ (特別コンテンツ、ゲームなど）は、プロバイダーの決定により、地域によってはアクセスが制限されるものもあります。
- BD-Live コンテンツを読み込んで、本編が再生できるまでに数分かかることがあります。

動画ファイルと VRモード録画ディスクの再生

本機では、VR モードで録画された DVD-R/-RW ディスクと、USB 機器の動画ファイルを再生できます。

1. ホームメニューを押します。

2. ∧/∨/</> で [動画] を選んで、◉ 決定を押します。
3. ∧/∨ で機器を選んで、◉ 決定を押します。

複数の機器を接続しているときは、上記のように表示されます。

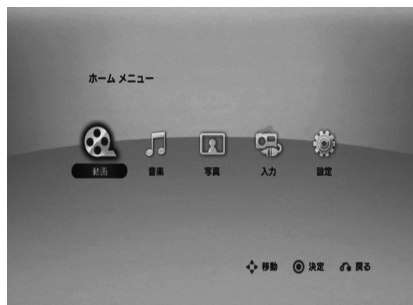
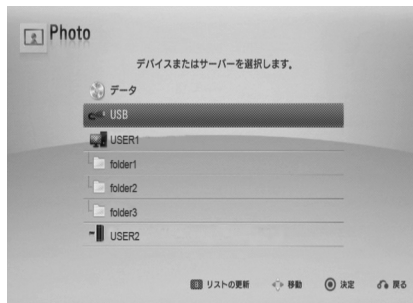
4. ∧/∨/</> でファイルを選んで、▶ 再生または◉ 決定を押して再生を開始します。

お知らせ

- 再生できるファイルについては、10 ページを参照してください。
- さまざまな再生機能を使用できます。35 ～ 43 ページを参照してください。
- ファイナライズされていない VR モードのディスクは、本機で再生できません。
- プレイリストは再生できません。
- DVD レコーダーを使用して CPRM 対応の番組を、VR モードで録画したディスクを再生できます。

CPRM について
CPRM（Content Protection for Recordable Media）とは、一度だけ録画可能な放送番組を記録するときに使われている著作権保護技術です。

写真ファイルの再生

本機では、写真ファイルを再生できます。

1. ⌂ **ホームメニュー**を押します。

2. **</>** で [写真] を選んで、◉ **決定**を押します。
3. **∧/∨** で機器を選んで、◉ **決定**を押します。

複数の機器を接続しているときは、上記のように表示されます。

4. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、◉ **決定**を押して写真を表示します。

スライドショーの再生

▶ **再生**を押すとスライドショーを開始します。

スライドショーの停止

再生中に ■ **停止**を押します。

スライドショーの一時停止

再生中に ❚❚ **一時停止 / ステップ**を押します。
▶ **再生**を押すとスライドショーが再開します。

次 / 前の写真を表示する

< または **>** を押すと前や次の写真を表示します。

お知らせ

- 再生できるファイルについては、10 ページを参照してください。
- さまざまな再生機能を使用できます。35 ～ 43 ページを参照してください。

4 再生

写真表示中のオプション

写真ファイルを再生中にさまざまなオプションを使用できます。

1. 写真ファイルを再生中に、**画面表示**を押してオプションメニューを表示します。

2. **∧/∨** でオプションを選びます。

1 **[現在の写真 / 合計写真数]** – **</>** で、前 / 次の写真を表示します。

2 **[スライドショー]** – **決定**を押して、スライドショーを開始/一時停止します。

3 **[音楽を選択]** – スライドショーのBGM を選べます。

4 **[音楽]** – **決定**を押して、BGM を開始 / 一時停止します。

5 **[回転]** – **決定**を押して、写真を時計回りに回転できます。

6 **[ズーム]** – **決定**を押して、[ズーム] メニューを表示します。

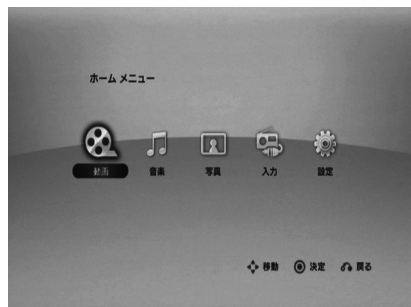
7 **[効果]** – スライドショーで次の写真に移動するときの表示のしかたを選べます。

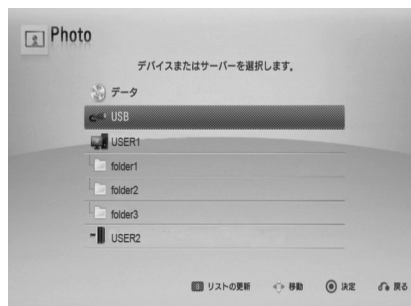
8 **[速度]** – **</>** で次の写真に移動する速度を選べます。

3. **戻る**を押して、オプションメニューを終了します。

スライドショー時の BGM の再生

音楽ファイルを再生しながら写真ファイルを表示できます。

1. **ホームメニュー**を押します。

2. **∧/∨/</>** で [写真] を選んで、**決定**を押します。

3. **∧/∨** で [ディスク]、[USB]、パソコンの共有フォルダ、DLNA サーバーのいずれかを選んで、**決定**を押します。

4. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、**決定**を押して写真を表示します。

5. **画面表示**を押して、オプションメニューを表示します。

6. **∧/∨** で [音楽を選択] を選んで、**決定**を押します。
メニュー画面が表示されます。

7. **∧/∨** で機器を選んで、⦿ **決定**を押します。

選択できる機器は、写真ファイルの保存先によって異なります。

写真の保存場所	使用可能な機器
ディスク	ディスク、USB 機器
USB 機器	ディスク、USB 機器
パソコンの共有フォルダ	パソコンの共有フォルダ
DLNA サーバー	DLNA サーバー

8. **∧/∨** で、再生するファイルまたはフォルダを選択します。

フォルダを選んで⦿ **決定**を押すと、下位ディレクトリが表示されます。

を選んで⦿ **決定**を押すと、上位ディレクトリが表示されます。

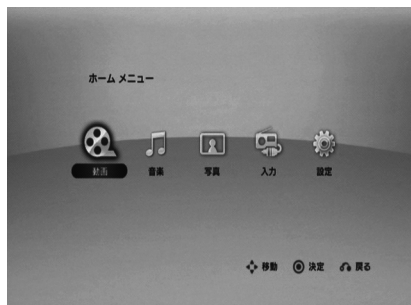
お知らせ

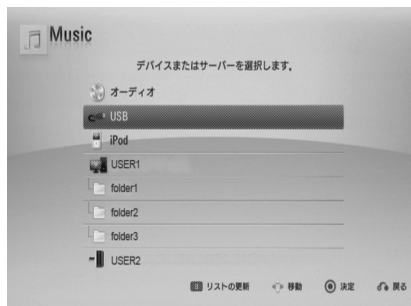
DLNA サーバーから音楽を選択するときは、フォルダを選択できません。ファイルを選択してください。

9. **>** で [OK] を選んで、⦿ **決定**を押して、音楽の選択を完了します。

音楽の再生

本機では、オーディオ CD や音楽ファイルを再生できます。

1. **ホームメニュー**を押します。

2. **∧/∨/</>** で [音楽] を選んで、⦿ **決定**を押します。

3. **∧/∨** で機器を選んで、⦿ **決定**を押します。

複数の機器を接続しているときは、上記のように表示されます。

4. **∧/∨/</>** でファイルやトラックを選んで、⦿ **決定**を押します。
再生を開始します。

4
再生

お知らせ

- 再生できるファイルについては、10 ページを参照してください。
- さまざまな再生機能を使用できます。35 ～ 43 ページを参照してください。

オーディオ CD を USB 機器に録音する

本機では、オーディオ CD の曲を USB 機器に録音できます。

1. USB 機器を、本機の前面にある USB 端子に差し込みます。
2. ▲ **開 / 閉**を押してディスクトレイを開き、オーディオ CD を置きます。

   ▲ **開 / 閉**を押してディスクトレイを閉じます。自動的に再生が始まります。
3. **画面表示**を押して、オプションメニューを表示します。

   または

   ● **USB 録音**を押します。オーディオ CD 内のすべての曲を録音します。
4. ∧/∨ で [CD レコーディング] を選んで、◉ **決定**を押します。
5. ∧/∨ で録音したいトラックを選んで、◉ **決定**を押します。

全て選択	オーディオ CD 内のすべてのトラックを選択します。
オプション	ポップアップメニューからエンコードオプションを選択します (128 kbps、192 kbps、320 kbps、またはロスレス圧縮)。
戻る	録音を取り消して前の画面に戻ります。

6. **∧/∨/</>** で [スタート] を選んで、⦿ **決定**を押します。

7. **∧/∨/</>** で保存先のフォルダを選びます。

∧/∨/</> で [新規フォルダ] を選んで、⦿ **決定**を押します。

キーボードメニューを使用して、フォルダ名を入力してください。

入力が終わったら [OK] を選んで、⦿ **決定**を押します。

8. **∧/∨/</>** で [OK] を選んで、⦿ **決定**を押します。
録音を開始します。

録音を停止する場合は、[取り消し] がハイライト表示されているときに ⦿ **決定**を押します。

9. 録音が完了するとメッセージが表示されます。⦿ **決定**を押して、保存先フォルダに作成された音楽ファイルを確認します。

お知らせ

- 再生時間 4 分のオーディオトラックを、192 kbps で音楽ファイルにコピーするときの平均所要時間は以下のようになります。

停止モード	再生中
1.4 分	2 分

- 上記はおおよその時間を示したものです。
- USB 機器の実際のコピー時間は、USB 機器の性能によって左右されます。
- USB 機器にコピーするときは、50 MB 以上の空き容量が必要です。
- オーディトラックの長さが 20 秒に満たないときは、正常にコピーできないことがあります。
- オーディオ CD のコピー中に、本機の電源を切ったり、接続している USB 機器を取り外したりしないでください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

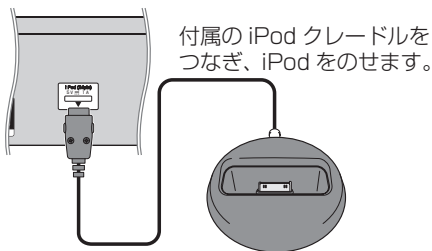
4 再生

iPod の再生

本機に iPod を接続して、iPod の音楽や画像を再生できます。iPodの機能については、iPod の取扱説明書を参照してください。

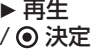
接続

iPod とテレビを本機に接続します。

1. ビデオケーブルを使用して、本機背面の映像出力端子とテレビの映像入力端子を接続します。テレビをビデオケーブルで接続した入力モードにします。
2. iPod の種類によって、「ビデオ」>「設定」を選択して、「TV 出力」を「確認」または「オン」に設定していることを確認してください。
   ビデオ設定の詳細は、iPod の取扱説明書を参照してください。
   本機が「iPod 入力」モード時のみ写真の表示が可能です。また、スライドショーのみ表示できます。iPod を操作してスライドショーを開始してください。スライドショーの詳細は、iPod の取扱説明書を参照してください。
3. 付属の iPod クレードルを本機に接続してから、iPod をしっかりと接続します。iPod クレードルは、コネクターの▼マークが下向きになるようにして接続してください。

4. ∧/∨/</> でファイルを選んで、◉ **決定**を押してファイルを再生します。

テレビ画面での iPod の操作

1. iPod を接続します。（左記参照）
2. **ホームメニュー**を押します。
3. **</>** で [音楽] または [動画] を選んで、◉ **決定**を押します。
   他の機器 (CD や USB) を接続しているときは、メニューで iPod を選択してください。
4. **∧/∨/</>** でコンテンツを選んで、◉ **決定**を押して再生を開始します。

   画面のパワースクロールを使用してコンテンツを簡単に検索できます。

お知らせ

iPod で表示される言語によっては、パワースクロール機能が正常に動作しません。

4 再生

iPod 入力モードでの操作

付属のリモコンまたは iPod 本体を使用して操作できます。

1. iPod を接続します。（51 ページ参照）
   本機の電源をオンにすると、自動的に iPod がオンになり、充電が開始されます。

2. 入力 /FM を押して、「iPod 入力」モードに設定します。

∧/∨/</>	メニュー項目を選びます。
▶ 再生 / ⦿ 決定	再生を開始します。
II	再生中に押すと、一時停止します。▶ **再生**を押すと、ふたたび再生を開始します。
◀◀/▶▶	早送り / 早戻しします。
I◀◀/▶▶I	前後の頭出しをします。
リピート	リピートモードを選択します（トラック (🔂)、すべて (🔁)、オフ (表示なし))。

お知らせ

- 本機は第４世代以降の iPod や iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPod mini、iPhone に対応しています。（iPod shuffle には対応しておりません）。モデルによっては一部機能が制限されます。
- エラーメッセージ「CHECK」または「iPod を確認してください」が表示されたとき。
  - 本機と iPod との通信に失敗した。
    → iPod をクレードルから取り外し、再度取り付けてください。
  - iPod がしっかりと接続されていない。
  - 本機が iPod を認識していない。
  - iPod のバッテリーの残量が非常に少ない。
    → iPod を充電してください。
    → iPod のバッテリーの残量が非常に少なくなっているときに充電すると、充電に時間がかかることがあります。
- iPod の接続は、付属の iPod クレードルを使用してください。
- iPod との互換性は、使用している iPod の種類によって異なります。
- iPod touch と iPhone は、操作方法が異なります。本機で使用するときは、追加の制御（ロックの解除など）が必要なことがあります。
- iPod touch や iPhone でアプリケーションなどを使用するときは、iPod クレードルから取り外してください。
- 本製品は、パイオニアホームページに記載されている iPod/iPhone のソフトウェアバージョンに基づいて開発、テストされたものです。
- パイオニアホームページに記載されているバージョン以外のソフトウェアをお客様の iPod/iPhone にインストールした場合、本製品との互換が無くなる場合があります。
- ビデオ品質は iPod/iPhone のビデオソースによって変化します。

FM ラジオを聴く

FM アンテナが接続されていることを確認してください。(27 ページ参照)。

放送局を受信する

1. **入力 /FM** を押して、表示窓に「TUNER(FM)」を表示させます。
最後に受信した放送局が検出されます。

2. **TUNE(− /+)** で聴きたい放送局に周波数を合わせます。
TUNE(− /+) を押し続けて、周波数が動き始めたら指を放します。放送局を受信すると自動的に止まります。

3. リモコンの**音量 (+/ −)** または本機前面のボリュームノブで音量を調整します。

放送局を記憶させる

放送局を 50 局まで記憶（プリセット）させることができます。

1. **入力 /FM** を押して、表示窓に「TUNER(FM)」を表示させます。

2. **TUNE(− /+)** で記憶させたい放送局を受信します。

3. ⦿ **決定**を押すと、表示窓にプリセット番号が点滅します。

4. **PRESET∧/∨** を押して、記憶させたいプリセット番号を選択します。

5. ⦿ **決定**を押します。
放送局が記憶されます。

6. 手順 2 ～ 5 を繰り返して、他の放送局も記憶させます。

記憶している放送局を削除する

1. **PRESET∧/∨** を押して、削除したいプリセット番号を選択します。

2. **クリア**を押すと、表示窓のプリセット番号が点滅します。

3. もう一度**クリア**を押すとプリセット番号が消灯し、選択したプリセット番号が削除されます。

記憶している放送局をすべて削除する

1. **クリア**を 2 秒以上押し続けます。
表示窓に「全件削除」と点滅表示されます。

2. **クリア**を押します。
記憶されているすべての放送局が削除されます。

放送に雑音が多いとき

雑音が多いときは、リモコンの **D（青）（ST/MONO）**を押して、ステレオからモノラルに切り換えてください。雑音が減って聴きやすくなります。

ホームネットワークを通じたコンテンツの再生

本機は、ホームネットワークに接続されているパソコンや DLNA Certified メディアサーバーにあるコンテンツを検索して再生できます。

DLNA について

デジタルメディアプレーヤーで、DLNA 対応デジタルメディアサーバー (パソコンや家電) から、動画、写真、および音楽コンテンツを表示し、再生できます。

DLNA (Digital Living Network Alliance) は、家電メーカーやコンピュータの各機器メーカーが共同で設立した組織です。デジタルリビングにより、消費者はホームネットワークを通じてデジタルメディアを簡単に共有できるようになります。

DLNA 認定ロゴにより、DLNA Interoperability Guideline に準拠している製品を簡単に見分けることができます。本機は、DLNA Interoperability Guideline v1.5 に準拠しています。

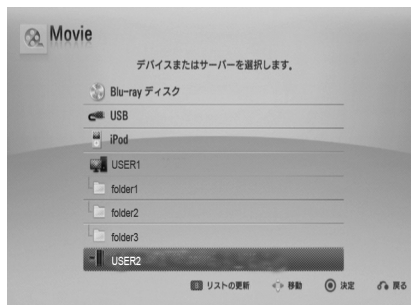
DLNA サーバーソフトウェアを実行しているパソコンやその他の DLNA 対応機器を本機に接続すると、ソフトウェアやその他の機器の設定を変更する必要があるときもあります。詳細については、ソフトウェアや機器の取扱説明書を参照してください。

DLNA メディアサーバーへのアクセス

1. ネットワーク接続および設定を確認します（31 ～ 33 ページ参照)。

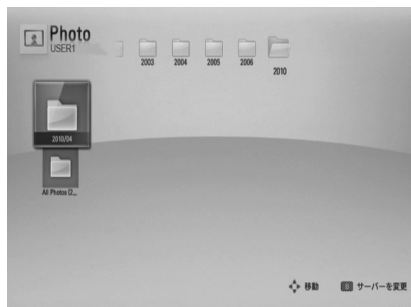
2. **ホームメニュー**を押します。

3. **∧/∨/</>** で [動画 / 音楽 / 写真] を選んで、 **決定**を押します。

4. **∧/∨** で DLNA メディアサーバーを選んで、 **決定**を押します。

利用できるメディアサーバーを再スキャンするときは、B（緑）ボタンを押してください。

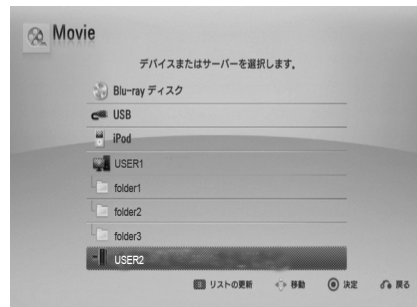
お知らせ

メディアサーバーによっては、本機がサーバーからアクセス許可を取得する必要があるときもあります。

5. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、 **決定**を押してファイルを再生します。

お知らせ

- 再生できるファイルについては、10 ページを参照してください。
- さまざまな再生機能を使用できます。35 ～ 43 ページを参照してください。
- 使用できる再生機能は、メディアサーバーによって異なります。
- 10 ページに記載の再生できるファイルでも、機能やメディアサーバーの能力によっては、再生できないことがあります。
- 再生できないファイルのサムネイルが画面に表示されることがありますが、本機では再生できません。
- デジタル放送（BS、CS、地上波）などを録画した著作権保護されたファイル・コンテンツは LAN 経由では再生できません。
- 再生できない音楽ファイルがあるときは、そのファイルをスキップして次のファイルを再生します。
- 字幕ファイルと動画ファイルは同じ名前で、同じフォルダ内に置く必要があります。
- DLNA メディアサーバーにあるコンテンツの再生および操作は、ホームネットワークの状態に影響を受けることもあります。
- USB 機器、DVD ドライブなどのリムーバブルメディアにあるファイルは、正常に共有できないこともあります。
- LAN 経由では AVCHD コンテンツは再生できません。

パソコンからの共有フォルダへのアクセス

1. ローカルエリアネットワークに接続されているパソコンを起動します。
2. パソコン上で、動画や写真・音楽ファイルを含むフォルダを共有します。
3. 本機で、ネットワーク接続および設定を確認します (31 ～ 33 ページ)。
4. **ホームメニュー**を押します。
5. **∧/∨/</>** で [動画 / 音楽 / 写真] を選んで、◉ **決定**を押します。
6. **∧/∨** で一覧から共有フォルダを選んで、◉ **決定**を押します。

利用できるメディアサーバーを再スキャンするときは、B（緑）ボタンを押してください。

お知らせ

共有フォルダによっては、フォルダにアクセスするために、本機でネットワークユーザー ID とパスワードの入力が必要になることもあります。

7. **∧/∨/</>** でファイルを選んで、◉ **決定**を押してファイルを再生します。

4
再生

お知らせ

- 再生できるファイルについては、10 ページを参照してください。
- さまざまな再生機能を使用できます。35 ～ 43 ページを参照してください。
- 再生できないファイルのサムネイルが 画面に表示されることもありますが、本機では再生できません。
- 字幕ファイルと動画ファイルは同じ名前で、同じフォルダ内に置く必要があります。
- パソコンの共有フォルダにあるコンテンツの再生および操作は、ホームネットワーク環境に影響を受けることもあります。
- USB 機器、DVD ドライブなどのリムーバブルメディアにあるファイルは、正常に共有できないことがあります。
- 使用しているパソコンの環境によっては、接続に問題が発生することもあります。

パソコンの要件

- Windows® XP (Service Pack 2 以降)、Windows Vista® (Service Pack 不要)、Windows 7®
- 1.2 GHz 以上の Intel® Pentium® III または AMD Sempron ™ 2200+ プロセッサ
- ネットワーク環境：100 メガビットイーサネット

ネットワークユーザー ID およびパスワードの入力

ご使用のパソコン環境によっては、共有フォルダにアクセスするために、本機でネットワークユーザー ID とパスワードの入力が必要になることがあります。

1. ネットワークユーザー ID とパスワードが必要なときは、自動的にキーボードメニューが表示されます。
2. **∧/∨/</>** で文字を入力し、⊙ **決定**を押してキーボードメニューでの選択を確定します。

   アクセント記号の付いた文字を入力するには、拡張文字セットから文字を選択します。

   例：[D] を選択して **画面表示**を押すと、拡張文字セットが表示されます。**∧/∨** で [D] または [Ď] を選択して⊙ **決定**を押します。

[クリア] – すべての入力した文字をクリアします。

[スペース] – カーソル位置にスペースを挿入します。

[<–] – カーソル位置の前の文字を削除します。

[ABC / abc / #+-=&] – キーボードメニュー設定を、大文字、小文字、または記号に変更します。

3. ネットワークユーザー ID とパスワードを入力したら、**</>/∧/∨** で [OK] を選んで ⊙ **決定**を押して、フォルダにアクセスします。

   ネットワークユーザー ID とパスワードは、フォルダにアクセスしたあとに記憶されます。ネットワークユーザー ID とパスワードを記憶させないようにするには、フォルダにアクセスする前に **A（赤）** ボタンを押して [記録する] チェックボックスの選択を解除します。

サウンドモードの設定

本機ではお好みに合わせて、音質を設定できます。
リモコンの**サウンド**を押すと、本機前面の表示窓またはテレビ画面に現在の音質モードが表示されます。設定したい音質モードが表示されるまでボタンを押してください。
イコライザーの表示項目は、音源および音質モードによって変化します。

• HTZ-HW919BD

[STD]

快適で自然なサウンドを楽しめます。

[バイパス]
マルチチャンネルサラウンド信号を含む音声を忠実に再生します。

[バスブラスト]
フロントスピーカーおよびサブウーファーからの低音効果を強化します。

[クリア音声]
人の声が明瞭に聞こえるようになります。

[ゲーム]
ビデオゲームを臨場感のある音で楽しむことができます。

[ナイト]
深夜に音量を低くして映画を見るときなどに最適です。

[Mus. Retouch]
MP3 ファイルなどの圧縮された音楽ファイルを再生する際に、サウンドを拡張できます。このモードは、2 チャンネルの音源でのみ使用できます。ただし、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー True HD で収録された音声はマルチチャンネル音源でも使用できます。

[ラウドネス]
低域と高域を強調します。

• HTZ-616BD

[Mode1]

快適で自然なサウンドを楽しめます。

[Mode2]

高域を抑え、より落ち着いたサウンドを楽しめます。

[バイパス]
マルチチャンネルサラウンド信号を含む音声を忠実に再生します。

[バスブラスト]
左右のフロントスピーカーおよびサブウーファーからの低音効果を強化します。

[PL II Movie]
入力信号を Pro Logic II Movie モードで処理して、2 チャンネルの音源から 5 チャンネルの全帯域出力を生成します。この設定は、多重録音された映画や古い映画を見るときに最適です。このモードは、2 チャンネルの音源でのみ使用できます。

[PL II Music]
入力信号を Pro Logic II Music モードで処理して、2 チャンネルの音源から 5 チャンネルの全帯域出力を生成します。この設定は、CD などの通常のステレオ音源に最適です。このモードは、2 チャンネルの音源でのみ使用できます。

[クリア音声]
人の声が明瞭に聞こえるようになります。

[ゲーム]
ビデオゲームを臨場感のある音で楽しむことができます。

[ナイト]
深夜に音量を低くして映画を見るときなどに最適です。

[Mus. Retouch]
MP3 ファイルなどの圧縮された音楽ファイルを再生する際に、サウンドを拡張できます。このモードは、2 チャンネルの音源でのみ使用できます。

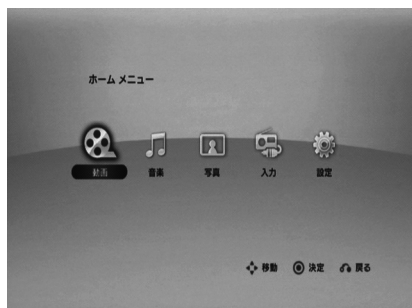
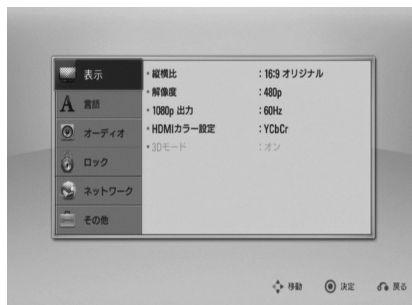
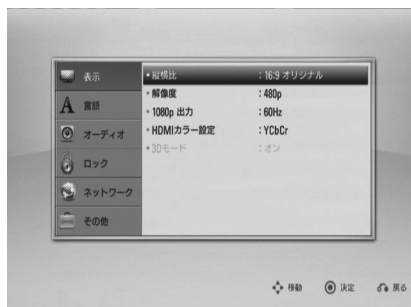
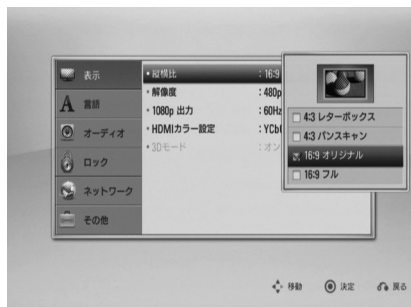
[ラウドネス]
低域と高域を強調します。

5　設定

本機の設定を行う

基本操作

[設定] メニューで本機の各種設定ができます。

1. ⌂ **ホームメニュー**を押します。

2. **∧/∨/</>** で [設定] を選んで、◉ **決定**を押します。
[設定] メニューが表示されます。

3. **∧/∨** で設定する項目（表示 / 言語 / オーディオ / ロック / ネットワーク / その他）を選んで、**>** を押します。

4. **∧/∨** で設定する項目を選んで、◉ **決定**を押します。

5. **∧/∨** で設定値を選んで、**>** または◉ **決定**を押して確定します。

5 設定

[表示] メニュー

縦横比

接続するテレビの種類に応じて、縦横比を設定します。

[4:3 レターボックス]
従来サイズ（4：3）のテレビと接続しているときに選びます。16:9 の映像は、上下に黒帯が付いた状態で映像を表示します。

[4:3 パンスキャン]
従来サイズ（4：3）のテレビと接続しているときに選びます。16:9 の映像は、画面に映像が収まるように、左右がカットされて表示されます。

[16:9 オリジナル]
ワイドテレビ（16：9）と接続しているときに選びます。 4：3 の映像は、左右に黒帯が付いた状態で表示されます。

[16:9 フル]
ワイドテレビ（16：9）と接続しているときに選びます。4：3 の映像は、画面に合わせ水平方向（左右）に引き伸ばされて表示されます。

お知らせ

解像度を 720p 以上に設定したときは、[4:3 レターボックス] および [4:3 パンスキャン] は選択できません。

解像度

コンポーネントおよび HDMI からの映像信号の出力解像度を設定します。解像度の設定の詳細については、26 ページと 67 ページをご覧ください。

[自動]
HDMI 出力端子に接続されていると、接続されているテレビに最適な解像度を自動的に選択します。コンポーネント映像出力端子のみに接続すると、解像度は初期設定である 1080i に自動的に変換されます。

[1080p]
1080 本のプログレッシブスキャン（順次走査）方式映像出力。

[1080i]
1080 本のインターレーススキャン（飛び越し走査）方式映像出力。

[720p]
720 本のプログレッシブスキャン（順次走査）方式映像出力。

[480p]
480 本のプログレッシブスキャン（順次走査）方式映像出力。

[480i]
480 本のインターレーススキャン（飛び越し走査）方式映像出力。

1080p モード出力

解像度を 1080p に設定したとき、1080p/24 Hz 入力に対応した HDMI 端子のあるテレビで映画のフィルム映像（1080p/24 Hz）をスムーズに表示するには、[24 Hz] を選択します。

お知らせ

- [24 Hz] に設定したときに、ビデオ素材の映像とフィルム素材の映像を切り換えると、画像が乱れることがあります。そのときは、[60 Hz] に設定してください。
- [1080p 出力] が [24 Hz] に設定されていても、接続したテレビが 1080p/24 Hz に対応していないときは、[60 Hz] に変更されます。

HDMI カラー設定

HDMI 出力端子からの出力の種類を設定します。この設定については、ディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

[YCbCr]
HDMI 対応のディスプレイ機器に接続する際に選びます。

[RGB]
DVI(RGB) のディスプレイ機器に接続する際に選びます。

3D モード設定

3D ディスクの再生方法を設定します。

[オフ]
3D ディスクも 2D 映像で再生します。

[オン]
3D ディスクのときは 3D 映像で再生します。

[言語] メニュー

表示メニュー言語

[設定] メニューとオンスクリーン画面で表示される言語を選びます（オンスクリーン画面については、40 ページをご覧ください）。

ディスクメニュー言語 / ディスク音声言語 / ディスク字幕言語

音声トラック (ディスク音声言語)、字幕、およびディスクメニューで使用する言語を選びます。

[オリジナル]
ディスク収録時に使用した言語を表示します。

[その他]
⦿ **決定**を押して任意の言語を選びます。66 ページの言語コードリストから表示したい言語のコード番号（4 桁）を**数字ボタン**で入力し、⦿ **決定**を押してください。

[オフ](ディスク字幕言語用)
字幕を表示しません。

お知らせ

ディスクによっては、ディスクメニュー言語が日本語になっていないと日本語のメニュー表示や言語、字幕設定ができないことがあります。また言語の設定ができないものもあります。

[オーディオ] メニュー

スピーカー設定

最適なサウンドが得られるように、接続したスピーカーの音量と視聴位置からの距離を設定します。「テスト」を使用してスピーカーの音量を同じレベルに調整します。

[スピーカー]
調整するスピーカーを選びます。

[ボリューム]
各スピーカーの出力レベルを調整します。

[距離]
各スピーカーと視聴位置との距離を調整します。

[テスト / テスト音オフ]
スピーカーからテストトーンを出力します。

[OK]
設定を確定します。

[取り消し]
設定を取り消します。

HD AV Sync

デジタルテレビでは、映像と音声との間で遅延が発生することがあります。このようなとき、映像と音声の遅延時間を調整することでこれを補うことができます。∧/∨で 0 ms ～ 300 ms の間で設定できます。

視聴しているチャンネルによって遅延時間は変化します。チャンネルを変えたとき、HD AV Sync を再調整する必要があります。

DRC (ダイナミック・レンジ・コントロール)

ドルビーデジタルやドルビーデジタルプラスでエンコードされたディスクの再生中に、オーディオ出力のダイナミックレンジ（最大の音と最小の音との差）を圧縮できます。圧縮することで、小音量でも映画などの音をはっきりと聞き取ることができます。この音響効果を楽しむには、DRC を [オン] に設定します。
オートにすると自動的に最適化します。

お知らせ

DRC の設定は、ディスクが挿入されていないとき、または本機が停止しているときのみ設定できます。

[ロック] メニュー（視聴制限）

[ロック] 設定の機能を変更するには、お客様があらかじめ設定した 4 桁の暗証番号を入力します。パスワードを入力していないときは、最初に設定します。4 桁のパスワードを 2 回入力して ⦿ **決定**を押します。

パスワード

パスワードの作成、変更ができます。

[新規]
4 桁のパスワードを 2 回入力して ⦿ **決定**を押して、新規パスワードを設定します。

[変更]
現在のパスワードを入力して、⦿ **決定**を押します。4 桁のパスワードを 2 回入力して ⦿ **決定**を押して、新規パスワードを設定します。

お知らせ

間違ったパスワードを入力したときは、⦿ **決定**を押す前に**クリア**を押します。次に、正しいパスワードを入力します。

パスワードを忘れたとき

以下の手順でパスワードを解除できます。

1. 本機にディスクが入っているときは取り出します。
2. [設定] メニューから [ロック] を選びます。
3. 手順 2 の状態のまま、**数字ボタン**で「210499」と入力します。
   表示窓に「PINCLR」と表示され、パスワードが解除されます。

DVD 視聴制限レベル

ディスクの内容により年齢制限が設定されている DVD の再生をブロックします（すべてのディスクが視聴制限されているわけではありません）。

[視聴制限レベル 1 ～ 8]
レベル 1 が最も制限が厳しく、レベル 8 は最も制限が軽くなります。

[ロック解除]
視聴制限が無効になります。
すべてのディスクが再生できるようになります。

Blu-ray ディスク視聴制限レベル

BD-ROM 視聴可能年齢制限を設定します。**数字ボタン**で BD-ROM を視聴できる年齢を入力します。

[255]
すべての BD-ROM を再生できます。

[0-254]
BD-ROM に記録された年齢制限によって BD-ROM の再生を禁止します。

[Blu-ray ディスク視聴制限レベル] は、Blu-ray ディスクにのみ適用されます。

エリアコード

65 ページのエリアコードリストをもとに、DVD ビデオディスクの年齢制限を指定する地域コードを入力してください。

[ネットワーク] メニュー

[ネットワーク] 設定は、BD-Live、ホームネットワーク上のコンテンツの再生などの機能を使用するのに必要な設定です。

接続設定

本機をローカルエリアネットワーク (LAN) に接続したときは、ネットワーク通信の設定が必要になります (31 ページ「インターネット接続」参照)。

接続状態

本機のネットワーク状態を確認するときは、[接続状態] を選んで、⊙ **決定**を押してください。ネットワークとインターネットへの接続が確立しているかどうかを確認できます。

BD LIVE 接続

BD-Live 機能を使用するときに、インターネットへのアクセスを制限できます。

[許可]
すべての BD-Live コンテンツへのインターネットアクセスを許可します。

[一部許可]
所有者の許諾のある BD-Live コンテンツのみのインターネットアクセスを許可します。許諾のないすべての BD-Live コンテンツへのインターネットアクセスは禁止されます。

[禁止]
すべての BD-Live コンテンツへのインターネットアクセスを禁止します。

[その他] メニュー

DivX VOD

DIVX ビデオについて：DivX® は、DivX, Inc. が開発したデジタルビデオフォーマットです。本製品は、DivX ビデオの再生に対応した正規の DivX Certified®（DivX 認証）デバイスです。詳細情報およびビデオファイルを DivX 形式に変換するためのソフトウェアについては、divx.com をご覧ください。

DIVX ビデオオンデマンドについて：DivX ビデオオンデマンド (VOD) コンテンツを再生するには、この DivX Certified® (DivX 認証）デバイスを登録する必要があります。登録コードは、デバイスセットアップメニューの DivX VOD セクションで確認できます。詳細情報と登録方法については、vod.divx.com をご覧ください。

[登録]
本機の登録コードを表示します。

[登録解除]
本機を無効にして、無効コードを表示します。

お知らせ

本機の登録コードを使用して DivX VOD からダウンロードされた映像は、本機でのみ再生可能です。

オートパワーオフ

本機は操作を停止してから 5 分以上何もしないと、スクリーンセーバーが表示されます。この設定を [オン] にすると、スクリーンセーバーが 25 分間表示されたあと、本機の電源が自動的に切れます。[オフ] にすると、本機を操作するまでスクリーンセーバーが表示されます。

初期化

[初期設定]
本機を工場出荷時の設定に戻します。

[BD-LIVE ストレージ消去]
接続された USB 機器の BD-Live コンテンツを削除します。

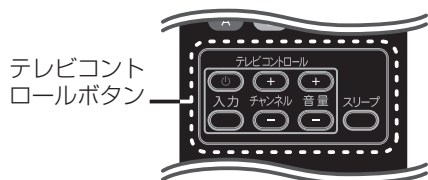
お知らせ

[初期設定] で本機を工場出荷時の設定に戻したときは、オンラインサービスのすべての認証およびネットワーク設定をもう一度行う必要があります。

ソフトウェア情報

本機のソフトウェアのバージョンを確認できます。

付属のリモコンを使用したテレビの操作

以下のボタンを使用して、一部のメーカーのテレビを操作できます。

ボタン	操作
⏻	テレビの電源を入 / 切します。
入力	テレビの入力を切り換えます。
チャンネル +/ –	記憶しているチャンネルを選択します。
音量 +/ –	テレビの音量を調整します。

お知らせ

テレビの種類によっては、一部のボタンで操作できないことがあります。

お使いのテレビに合わせたリモコンの設定

付属のリモコンで一部のメーカーのテレビを操作できます。下記の表の該当するメーカーコードをリモコンに設定してください。

1. テレビコントロール ⏻（電源）ボタンを押しながら、**数字ボタン**を押してテレビの下記のメーカーコードを入力します。

メーカー	コード番号
パイオニア	1 (工場出荷時の設定)
ソニー	2, 3
パナソニック	4, 5
Samsung	6, 7
LG	8, 9

2. テレビコントロール ⏻（電源）ボタンを放すと、設定が完了します。

正しいメーカーコードを入力したあとでも、お使いのテレビによっては、一部のボタンが機能しないこともあります。また、リモコンの電池を交換したときは、設定したコード番号は初期設定に戻ることがあります。このときは、もう一度コード番号を入力し直してください。

エリアコードリスト

このリストからエリアコードを選択します。

エリア	コード	エリア	コード	エリア	コード	エリア	コード
アフガニスタン	AF	フィジー	FJ	モナコ	MC	スロバキア共和国	SK
アルゼンチン	AR	フィンランド	FI	モンゴル	MN	スロベニア	SI
オーストラリア	AU	フランス	FR	モロッコ	MA	南アフリカ共和国	ZA
オーストリア	AT	ドイツ	DE	ネパール	NP	韓国	KR
ベルギー	BE	英国	GB	オランダ	NL	スペイン	ES
ブータン	BT	ギリシア	GR	オランダ領アンティル諸島	AN	スリランカ	LK
ボリビア	BO	グリーンランド	GL	ニュージーランド	NZ	スウェーデン	SE
ブラジル	BR	香港	HK	ナイジェリア	NG	スイス	CH
カンボジア	KH	ハンガリー	HU	ノルウェー	NO	台湾	TW
カナダ	CA	インド	IN	オマーン	OM	タイ	TH
チリ	CL	インドネシア	ID	パキスタン	PK	トルコ	TR
中国	CN	イスラエル国	IL	パナマ	PA	ウガンダ	UG
コロンビア	CO	イタリア	IT	パラグアイ	PY	ウクライナ	UA
コンゴ	CG	ジャマイカ	JM	フィリピン	PH	米国	US
コスタリカ	CR	日本	JP	ポーランド	PL	ウルグアイ	UY
クロアチア	HR	ケニア	KE	ポルトガル	PT	ウズベキスタン	UZ
チェコ共和国	CZ	クウェート	KW	ルーマニア	RO	ベトナム	VN
デンマーク	DK	リビア	LY	ロシア連邦	RU	ジンバブエ	ZW
エクアドル	EC	ルクセンブルグ	LU	サウジアラビア	SA		
エジプト	EG	マレーシア	MY	セネガル	SN		
エルサルバドル	SV	モルジブ	MV	シンガポール	SG		
エチオピア	ET	メキシコ	MX				

言語コードリスト

この一覧を使用して、ディスク音声言語、ディスク字幕言語、およびディスクメニューの設定したい言語を入力します。

言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード
アファール語	6565	フランス語	7082	リトアニア語	7684	シンハラ語	8373
アフリカーンズ語	6570	フリースランド語	7089	マケドニア語	7775	スロバキア語	8375
アルバニア語	8381	ガリシア語	7176	マラガシ	7771	スロベニア語	8376
アムハラ語	6577	グルジア語	7565	マレー語	7783	スペイン語	6983
アラビア語	6582	ドイツ語	6869	マラヤーラム語	7776	スーダン語	8385
アルメニア語	7289	ギリシア語	6976	マオリ語	7773	スワヒリ語	8387
アッサム語	6583	グリーンランド語	7576	マラーティー語	7782	スウェーデン語	8386
アイマラ語	6588	グワラニ語	7178	モルダビア語	7779	タガログ語	8476
アゼルバイジャン語	6590	グジャラート語	7185	モンゴル語	7778	タジク語	8471
バシキール語	6665	ハウサ語	7265	ナウル語	7865	タミール語	8465
バスク語	6985	ヘブライ語	7387	ネパール語	7869	テルグ語	8469
ベンガル語	6678	ヒンディ語	7273	ノルウェー語	7879	タイ語	8472
ブータン語	6890	ハンガリー語	7285	オリヤー語	7982	トンガ語	8479
ビハール語	6672	アイスランド語	7383	パンジャブ語	8065	トルコ語	8482
ブルトン語	6682	インドネシア語	7378	パシュトー語	8083	トルクメン語	8475
ブルガリア語	6671	インテルリングア語	7365	ペルシア語	7065	トゥイ語	8487
ビルマ語	7789	アイルランド語	7165	ポーランド語	8076	ウクライナ語	8575
ベロルシア語	6669	イタリア語	7384	ポルトガル語	8084	ウルドゥー語	8582
中国語	9072	日本語	7465	ケチュア語	8185	ウズベク語	8590
クロアチア語	7282	カンナダ語	7578	レートロマン語	8277	ベトナム語	8673
チェコ語	6783	カシミール語	7583	ルーマニア語	8279	ボラピューク語	8679
デンマーク語	6865	カザフ語	7575	ロシア語	8285	ウェールズ語	6789
オランダ語	7876	キルギス語	7589	サモア語	8377	ウォロフ語	8779
英語	6978	韓国語	7579	サンスクリット語	8365	コーサ語	8872
エスペラント語	6979	クルド語	7585	スコッチゲール語	7168	イディッシュ語	7473
エストニア語	6984	ラオ語	7679	セルビア語	8382	ヨルバ語	8979
フェロー語	7079	ラテン語	7665	セルボクロアチア語	8372	ズールー語	9085
フィジー語	7074	ラトビア語	7686	ショナ語	8378		
フィンランド語	7073	リンガラ語	7678	シンディ語	8368		

映像出力解像度

著作権保護されていないメディアを再生するとき

映像出力 / 解像度	HDMI出力	コンポーネント映像出力	
		HDMI接続時	HDMI非接続時
480i	480i	480i	
480p	480p	480p	
720p	720p	720p	
1080i	1080i	1080i	
1080p / 24 Hz	1080p / 24 Hz	480i	1080i
1080p / 60 Hz	1080p / 60 Hz	480i	1080i

著作権保護されているメディアを再生するとき

映像出力 / 解像度	HDMI出力	コンポーネント映像出力
480i	480p	480i
480p	480p	480i / 480p
720p	720p	480i / 480p
1080i	1080i	480i / 480p
1080p / 24 Hz	1080p / 24 Hz	480i / 480p
1080p / 60 Hz	1080p / 60 Hz	480i / 480p

HDMI 出力接続

- 480i 解像度設定のときは、HDMI 出力の実際の解像度は 480p に変更されます。
- 解像度を手動で選択して HDMI 端子をテレビに接続し、テレビ側で設定した解像度に対応していないときは、解像度設定が「自動」に変更されます。
- テレビが対応していない解像度を設定したときは、警告メッセージが表示されます。解像度を変更したあと、20 秒間画面が表示されないときは、自動的に前の解像度に戻ります。
- [1080p 出力] が [24 Hz] に設定されていても、接続したテレビが 1080p/24 Hz に対応していないときは、[60 Hz] に変更されます。

コンポーネント映像出力接続

アップコンバートで表示できないテレビもあります。

VIDEO OUT 接続

映像出力端子の解像度は、常に 480i で出力されます。

6　困ったときは

故障かな？と思ったら

一般

電源が入らない。	• 電源プラグがしっかりとコンセントに差し込まれているか確認してください。
勝手に電源が切れる。	• オートパワーオフが設定されています。5 分後にスクリーンセーバーになり、約 30 分後に自動でオフになります。
再生が始まらない。	• 再生できないディスクが入っていないか確認してください。（「本機で再生できるディスク」（9 ページ）参照） • ディスクのリージョンコードが本機で再生できる番号になっているか確認してください。（「リージョンコードについて」（11 ページ）参照） • ディスクが裏返しに入っていないか確認してください。 • ディスクが斜めにずれて入っていないか確認してください。 • ディスクが汚れていないか確認してください。 • 視聴制限レベルを確認してください。（「DVD 視聴制限レベル」、「Blu-ray ディスク視聴制限レベル」（62 ページ）参照）
アングルを変更できない。	• 再生しているディスクに複数のアングルが収録されているか確認してください。（「アングルの切り換え」（43 ページ）参照）
字幕言語を変更またはオフにできない。	• 再生しているディスクに複数の字幕が収録されているか確認してください。（「字幕の切り換え」（42 ページ）参照）
MP3/WMA/JPEG/DivX ファイルを再生できない。	• 本機で再生可能なフォーマットで記録されているか確認してください。（「本機で再生できるファイル」（10 ページ）参照） • 動画ファイルのコーデックに対応しているか確認してください。（「本機で再生できるファイル」（10 ページ）参照）
リモコンが正しく動作しない。	• フロントパネルのリモコン受光部から 7 m、左右 30°の範囲で操作してください。 • リモコンの電池を交換してください。
表示窓が暗い。	• リモコンのディマーボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。

映像

映像が映らない。	• 本機からの映像出力がテレビ画面に表示されるように、テレビの画像入力モードを設定してください。 • 映像ケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。（「テレビとの接続」（24 ページ）参照） • [設定] メニューの [HDMI カラー設定] が、正しく設定されているか確認してください。（60 ページ参照） • 設定した解像度にテレビが対応しているか確認してください。（「解像度」（59 ページ）参照） • 本機の HDMI OUT 端子が、DVI 機器に接続されていないか確認してください。
映像にノイズがある。	• 使用しているテレビとは異なるカラーシステムで録画されたディスクを再生しています。 • 設定した解像度にテレビが対応しているか確認してください。（「解像度」（59 ページ）参照）
3D 映像が出力されない。 または 3D 映像に見えない。	• 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続してください。 • テレビの 3D 設定を確認してください。 • [設定] メニューの [3D モード] 設定を [オン] にしてください。

音声

音が出ない。 音が歪んでいる。	• 早戻し、早送り、スロー再生、または一時停止モードのときは音声は出力されません。 • 音量が低くなっていないか確認してください。 • スピーカーのケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。（18、21 ページ参照）
サラウンドまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• スピーカーが正しく接続されているか確認してください。 • オーディオメニューのスピーカー設定で、ボリュームの設定を確認してください。（61 ページ参照）
サブウーファーから音が出ない。	• 再生している音声信号に低音域の成分が含まれていないときは、サブウーファーから音は出ません。 • オーディオメニューのスピーカー設定で、ボリュームの設定を確認してください。（61 ページ参照）
ラジオ受信中に雑音が多い。	• アンテナを接続して最良な受信位置に設置してください。 • 屋外に FM アンテナを設置してください。 • 雑音を生じさせる機器の電源を切るか本機から遠ざけてください。

ネットワーク

BD-Live 機能が動作しない。	• 接続された USB 機器に十分な空き容量がありますか？1 GB 以上の空き容量を確保してください。（推奨 2 GB 以上） • 本機が正しくローカルエリアネットワークに接続されていて、インターネットにアクセスできることを確認してください (31 ～ 33 ページ参照)。 • 使用しているブロードバンド速度が BD-Live 機能を使用できる速度ではありません。本機に合ったブロードバンド速度が利用できるように、ご利用のインターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。 • [設定] メニューの [BD-Live 接続] オプションが [禁止] に設定されています。[許可] に設定してください。（62 ページ参照）

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

本機のサポート関連情報については、パイオニアの Web サイトをご覧ください。
http://pioneer.jp/support/

保証とアフターサービス

修理に関するご質問、ご相談

裏表紙に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店様にご相談ください。

保証書（別添）

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

68 ～ 70 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店にご連絡ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」（裏表紙）をご覧になり、修理受付窓口にご相談ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：ブルーレイディスクサラウンドシステム
- 型番：HTZ-HW919BD、HTZ-616BD
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば、飲食店等での営業用の長時間使用、車両、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は 5 ～ 6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗料などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたりするのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）。また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

サービス拠点のご案内

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	郵便番号	住所
☆北海道サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	郵便番号	住所
☆東北サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	郵便番号	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-5357-0770	〒156-0055	世田谷区船橋5-28-6　吉崎ビル1F
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	郵便番号	住所
☆千葉サービスステーション	FAX 047-773-9354	〒275-0016	習志野市津田沼3-20-22
☆北関東サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX 025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX 045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	郵便番号	住所
☆中部サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8384	岐阜市薮田南4-2-10
静岡サービス認定店	FAX 054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話	〒	住所
☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-644-7975	〒601-8444	京都市南区西九条森本町4　イッツアイランド1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-50-0889	〒630-8141	奈良市南京終町1-174-2
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国･四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話	〒	住所
☆中四国サービスセンター	FAX	082-534-5859	〒733-0003	広島市西区三篠町2-4-22 NKビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-250-2724	〒700-0975	岡山市北区今3-10-10　備前ビル1F
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービス認定店	FAX	087-813-6112	〒760-0080	高松市木太町862-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階107号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		電話	〒	住所
☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-1-9　ヤマエ博多駅南ビル1F
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒861-2118	熊本市花立4-9-31
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点		電話	〒	住所
沖縄サービス認定店	TEL	098-987-1120	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5
	FAX	098-987-1121		

平成23年4月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

7 その他

商標とライセンス

Blu-ray Disc ™、Blu-ray ™、Blu-ray 3D ™、BD-Live ™、BONUSVIEW ™、AVCREC ™および、それらのロゴは Blu-ray Disc Association の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

 は DVD フォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5956674 号、5974380 号、6226616 号、6487535 号、7392195 号、7272567 号、7333929 号、7212872 号、または、米国およびその他の国での登録済み特許、または特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、記号、および DTS-HD と記号の組み合わせは DTS 社の登録商標であり、また、DTS-HD Master Audio ¦ Essential は DTS 社の商標です。製品はソフトウェアを含んでいます。© DTS 社 不許複製。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の米国とその他の国における商標または登録商標です。

DLNA®、DLNA ロゴおよび DLNA CERTIFIED® は Digital Living Network Alliance の商標、サービスマークまたは認証マークです。

DIVX HD

DivX®、DivX Certified®、およびこれらの関連ロゴは、DivX, Inc. の登録商標であり、ライセンス許諾に基づき使用しています。

x.v.Colour
x.v.Color

“x.v.Colour”、 x.v.Colour および x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。

AVCHD™

“AVCHD”および“AVCHD”ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

Made for iPod iPhone

「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod あるいは iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリを iPod あるいは iPhone と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

iPod、iPod classic、iPod nano、および iPod touch は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® 無線技術は、電子機器を接続するための無線技術です。
Bluetooth 無線技術を使用して機器を接続しても、他の設定は変更されません。

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

本機は、ロヴィコーポレーションの米国特許および他の知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

ソフトウェアのライセンスに関するお知らせ

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾（ライセンス）について記載しています。正確な内容を保持するため、原文（英語）を記載しています。

• Crypt Data Packaging : Copyright (c) Trantor Standard Systems Inc., 2001
• curl: copyright © 1996 - 2008, Daniel Stenberg
• expat: copyright © 2006 expat maintainers
• fontconfig :
  • Copyright (c) 2000 Keith Packard
  • Copyright (c) 2005 Patrick Lam
• freetype: copyright © 2003 The FreeType Project (www.freetype.org).
• International Components for Unicode: copyright © 1995-2010 International Business Machines Corporation and others
• jpeg: このソフトウェアは、Independent JPEG Group の成果の一部に基づいています。copyright © 1991 – 1998, Thomas G. Lane.
• JSON : Copyright (c) 2005 JSON.org
• lighttpd : Copyright (c) 2004, Jan Kneschke, incremental
• mng: copyright © 2000-2007 Gerard Juyn, Glenn Randers-Pehrson
• ntp : copyright © David L. Mills 1992-2006
• openSSL :
  • cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
  • software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
  • software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org)
• pcre : Copyright (c) 1997-2010 University of Cambridge
• PHP : Copyright (c) 1999 - 2010 The PHP Group
• pixman :
  • Copyright 1987, 1988, 1989, 1998 The Open Group
  • Copyright 1987, 1988, 1989 Digital Equipment Corporation
  • Copyright 1999, 2004, 2008 Keith Packard
  • Copyright 2000 SuSE, Inc.
  • Copyright 2000 Keith Packard, member of The XFree86 Project, Inc.
  • Copyright 2004, 2005, 2007, 2008 Red Hat, Inc.
  • Copyright 2004 Nicholas Miell
  • Copyright 2005 Lars Knoll & Zack Rusin, Trolltech
  • Copyright 2005 Trolltech AS
  • Copyright 2007 Luca Barbato
  • Copyright 2008 Aaron Plattner, NVIDIA Corporation
  • Copyright 2008 Rodrigo Kumpera
  • Copyright 2008 André Tupinambá
  • Copyright 2008 Mozilla Corporation
  • Copyright 2008 Frederic Plourde
  • Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc.
• png: copyright © 2004 Glenn Randers-Pehrson
• portmap : copyright © 1990 The Regents of the University of California
• Protocol Buffer : Copyright 2008, Google Inc.
• tiff :
  • Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
  • Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.
• tinyxml : Original file by Yves Berquin.
• UnitTest++ : copyright © 2006 Noel Llopis and Charles Nicholson
• UPnP SDK : copyright © 2000-2003 Intel Corporation
• xml2 : copyright © 1998-2003 Daniel Veillard
• xslt :
  • Copyright (C) 2001-2002 Daniel Veillard.
  • Copyright (C) 2001-2002 Thomas Broyer, Charlie Bozeman and Daniel Veillard.
• WPA Supplicant : Copyright © 2003-2007, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors
• zlib: copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

All rights reserved/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

GNU General Public License（以下「GPL」とします）および GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）に関するお知らせ

本製品は、GNU GPL Version 2 および GNU LGPL Version 2.1、Version 2.0 の条件にもとづいて利用が許諾された以下のソフトウェアを含んでいます。

GPL 実行可能ファイル：
Linux kernel, bash, busybox, dhcpcd, e2fsprogs, fdisk, msdl-1.1, mtd-utils, net-tools, procps, psmisc, samba-3.0.25b, sysutils, tftpd, tinylogin, unzip, uteletd

LGPL ライブラリ：
avahi, ATK, uClibc, DirectFB, cairo, ffmpeg, gail, glib, gnuTLS, GTK+, iconv, libcrypt, libdaemon, libgpg-error, libsoup, libintl, mpg123, pango, PyEnchant, webkit

gSOAP Public License 1.3 LIBRARY：
gsoap

該当するソースコードの複製物は以下の URL からダウンロードできます。
http://www.oss-pioneer.com/homeav/hts/

なお、ソースコードの内容についてのご質問にはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

GNU GPL Version 2 および、GNU LGPL Version 2.1、Version 2.0 の詳細については以下の URL をご覧ください。
(www.gnu.org/licenses/gpl-2.0.html、www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html、www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.0.html)

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991
Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.
When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.
To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.
For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.
We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.
Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.
Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.
The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".
Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.
In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.
If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.
If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER

PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.
To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.
one line to give the program's name and an idea of what it does.
Copyright (C) *yyyy name of author*

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA.
Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.
If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:
Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details
type `show w'. This is free software, and you are welcome
to redistribute it under certain conditions; type `show c'
for details.
The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.
You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice
This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999
Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.
[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.
This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.
When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.
To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.
For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.
We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.
To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.
Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.
Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.
When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.
We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.
For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.
In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.
Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.
The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".
A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.
The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)
"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.
Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
  (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.
In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.
Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.
This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.
4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.
If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.
However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.
When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.
If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)
Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.
6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.
You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and

so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.
If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY
15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries
If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).
To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.
one line to give the library’s name and an idea of what it does.
Copyright (C) *year name of author*

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.
You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob’ (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice
That’s all there is to it!

電波に関するご注意

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記②に示すような機器もあります。

① 2.4 GHz を使用する主な機器の例

- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線 LAN 機器（IEEE802.11b/g）
- ワイヤレス AV 機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類

② 存在がわかりにくい 2.4 GHz を使用する主な機器の例

- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本機を同時に使用すると、電波の干渉により、音がとぎれて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなることがあります。

- 2.4 GHz を利用する無線 LAN（IEEE802.11b/g）、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かないことがあります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出ることがあります）
- テレビにノイズが出るときは、*Bluetooth* 機能搭載機器や本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。*Bluetooth* 機能搭載機器や本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

電波法に基づく認証について

本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。

したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内のみで使用できます。ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること。

周波数について

周波数表示の見かた
（本機の背面に記載）

①「1」想定される与干渉距離（約 10 m）を表します
②「FH」変調方式を表します
③「2.4」GHz 帯を使用する無線設備を表します

使用範囲について

ご家庭内での使用に限ります（通信の環境により伝送距離が短くなることがあります）。

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声がとぎれたり停止したりします。

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 2.4 GHz を利用する無線 LAN（IEEE802.11b/g）、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは、使用していなければ電波干渉は起こりません。

電波の反射について

本機が通信する電波には、直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。

このようなときは、*Bluetooth* 機能搭載機器の場所を少し動かしてみてください。*Bluetooth* 機能搭載機器と本機の間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声がとぎれたりすることがあります。

ご注意

- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は、すべての *Bluetooth* 機能搭載機器との接続動作を保証するものではありません。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。

ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止したうえ、ご相談窓口（裏表紙）にご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、ご相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

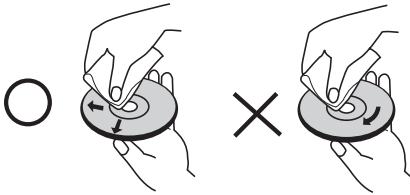
ディスクについての注意

ディスクの取り扱い

ディスクに紙やテープを貼らないでください。

ディスクの保管

ディスクは、ケースに入れて保管してください。ディスクを直射日光に当てたり熱源に向けないでください。直射日光の当たる車中に放置しないでください。

ディスクのお手入れ

アルコール、ベンジン、シンナー、市販のクリーナー、またはアナログレコード用の静電気防止スプレーなどの強力な洗剤は使用しないでください。

本機の取り扱い

本機を輸送するとき

本機を梱包した梱包箱と梱包材を保管しておいてください。本機を輸送するときなどにご使用ください。

本機の表面をきれいに保ってください。

- 本機の近くで殺虫剤などの揮発性のものを使用しないでください。
- 強い力で表面をこすると表面が傷つく可能性があります。
- ゴムまたはビニール製品を長時間接触させたままにしないでください。

本機のお手入れ

柔らかい乾いた布で本機の汚れを取ってください。表面の汚れがひどい場合は、柔らかい布に中性洗剤を少し付けてふき取ります。アルコール、ベンジン、シンナーなどの強力な洗剤は使用しないでください。本機の表面が損傷することがあります。

本機の保守

本機は高性能な精密機器です。光ピックアップレンズおよびディスク駆動部品が汚れたり摩耗したりした場合、画質が低下する可能性があります。詳細については、お近くのサービスセンターにお問い合わせください。

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付きます（結露）。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて1～2 時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。

夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

S005_A1_Ja

仕様 (HTZ-HW919BD)

本体部

一般

- **電源電圧**：AC 100 V、50 Hz/60 Hz
- **消費電力**：85 W
- **待機時消費電力**：0.3 W 未満
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行):** 約 430 mm × 64 mm × 304 mm
- **本体質量（概算）**：3.4 kg
- **許容動作温度**：5 ℃～ 35 ℃
- **許容動作湿度**：85 % 以下
- **USB バスパワー**：DC 5V ⎓ 500 mA

入力 / 出力

- **映像出力**：1.0 V (p-p)、75 Ω、ネガティブ sync、RCA 端子× 1
- **コンポーネント映像出力**:(Y）1.0 V (p-p)、75 Ω、ネガティブ sync、RCA 端子× 1/ (C_B/P_B,C_R/P_R) 0.7 V (p-p)、75 Ω、RCA 端子× 2
- **HDMI 出力（映像 / 音声）**：19 ピン（タイプ A）
- **アナログ音声入力**：2.0 Vrms（1 kHz、0 dB)、600 Ω、RCA 端子（L、R）×1
- **デジタル入力（光）**：光端子× 1
- **PORTABLE IN**：0.5 Vrms（3.5 mm ステレオジャック)
- **HDMI 入力（映像 / 音声）**：19 ピン（タイプ A）× 2

チューナー

- **FM 受信周波数**：76 MHz ～ 90 MHz

アンプ

- **定格出力（JEITA)**
  フロント　180 W × 2（1 kHz、4 Ω、THD 10 %)（2ch 駆動時）
  サブウーファー　200 W（100 Hz、3 Ω、THD 10 %)

システム

- **信号システム**：標準 NTSC カラーテレビシステム
- **周波数応答**：20 Hz ～ 20 kHz (サンプリング周波数 48 kHz、96 kHz、192 kHz)
- **LAN ポート**：イーサネット端子× 1、10BASE-T/100BASE-TX

スピーカー部

フロントスピーカー

- **型式**：密閉式
- **使用スピーカー**：5.7 c m× 3 c m（両面 HVT 方式）×4、2 cm ドーム型×4
- **インピーダンス**：4 Ω
- **再生周波数帯域**：130 Hz ～ 32 kHz
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行)**：900 mm × 36 mm × 66 mm（スタンド無し）900 mm × 93 mm × 66 mm（スタンド有り）
- **本体質量**：1.6 kg

サブウーファー

- **型式**：バスレフ式フロア型
- **使用スピーカー**：16 cm（コーン型）× 1
- **インピーダンス**：3 Ω
- **再生周波数帯域**：30 Hz ～ 1 kHz
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行)**：130.5 mm × 420 mm × 375 mm
- **本体質量**：4.4 kg

仕様 (HTZ-616BD)

本体部

一般

- **電源電圧**：AC 100 V、50 Hz/60 Hz
- **消費電力**：150 W
- **待機時消費電力**：0.3 W 未満
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行):** 約 430 mm × 64 mm × 304 mm
- **本体質量（概算）**：3.4 kg
- **許容動作温度**：5 ℃～ 35 ℃
- **許容動作湿度**：85 % 以下
- **USB バスパワー**：DC 5V ⎓ 500 mA

入力 / 出力

- **映像出力**：1.0 V (p-p)、75 Ω、ネガティブ sync、RCA 端子× 1
- **コンポーネント映像出力:**(Y）1.0 V (p-p)、75 Ω、ネガティブ sync、RCA 端子× 1/ (CB/PB,CR/PR) 0.7 V (p-p)、75 Ω、RCA 端子× 2
- **HDMI 出力（映像 / 音声）**：19 ピン（タイプ A)
- **アナログ音声入力**：2.0 Vrms（1 kHz、0 dB)、600 Ω、RCA 端子（L、R）×1
- **デジタル入力（光）**：光端子× 1
- **PORTABLE IN**：0.5 Vrms（3.5 mm ステレオジャック)
- **HDMI 入力（映像 / 音声）**：19 ピン（タイプ A）× 2

チューナー

- **FM 受信周波数**：76 MHz ～ 90 MHz

アンプ

- **定格出力（JEITA)**
  フロント　180 W × 2（1 kHz、4 Ω、THD 10 %) (2ch 駆動時）
  センター　180 W（1 kHz、4 Ω、THD 10 %)
  リア　180 W × 2（1 kHz、4 Ω、THD 10 %) (2ch 駆動時）
  サブウーファー　200 W（100 Hz、3 Ω、THD 10 %)

システム

- **信号システム：** 標準 NTSC カラーテレビシステム
- **周波数応答**：20 Hz ～ 20 kHz (サンプリング周波数 48 kHz、96 kHz、192 kHz)
- **LAN ポート**：イーサネット端子× 1、10BASE-T/100BASE-TX

スピーカー部

フロント / サラウンドスピーカー(左 / 右)

- **型式**：密閉式ブックシェルフ型
- **使用スピーカー**：6.6 cm（コーン型）× 1
- **インピーダンス**：4 Ω
- **再生周波数帯域**：70 Hz ～ 20 kHz
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行)：** 96 mm × 96 mm × 85 mm
- **本体質量**：0.4 kg

センタースピーカー

- **型式**：密閉式ブックシェルフ型
- **使用スピーカー**：6.6 cm（コーン型）× 1
- **インピーダンス**：4 Ω
- **再生周波数帯域**：65 Hz ～ 20 kHz
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行)：** 300 mm × 87 mm × 65 mm
- **本体質量**：0.6 kg

サブウーファー

- **型式**：バスレフ式フロア型
- **使用スピーカー**：16 cm（コーン型）× 1
- **インピーダンス**：3 Ω
- **再生周波数帯域**：30 Hz ～ 1 kHz
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行)：** 130.5 mm × 420 mm × 375 mm
- **本体質量**：4.4 kg

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーコールは、携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　0120−944−222　一般電話　044−572−8102

■ファックス　044−572−8103

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（コ゛ーハ゜イオニア）　一般電話　044−572−8100

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair/
※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−987−1120

■ファックス　098−987−1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　一般電話　044−572−8107

■ファックス　0120−5−81096

平成23年4月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.044

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<MFL67205114>